

附 属 資 料

（Ⅰ）標準掘削断面図

- ・ 配水管
- ・ 給水管

（Ⅱ）路面復旧図

- ・ 市 道
- ・ 県 道
- ・ 国 道

（Ⅲ）しゅん工図作成要領

（Ⅳ）工事写真撮影要領

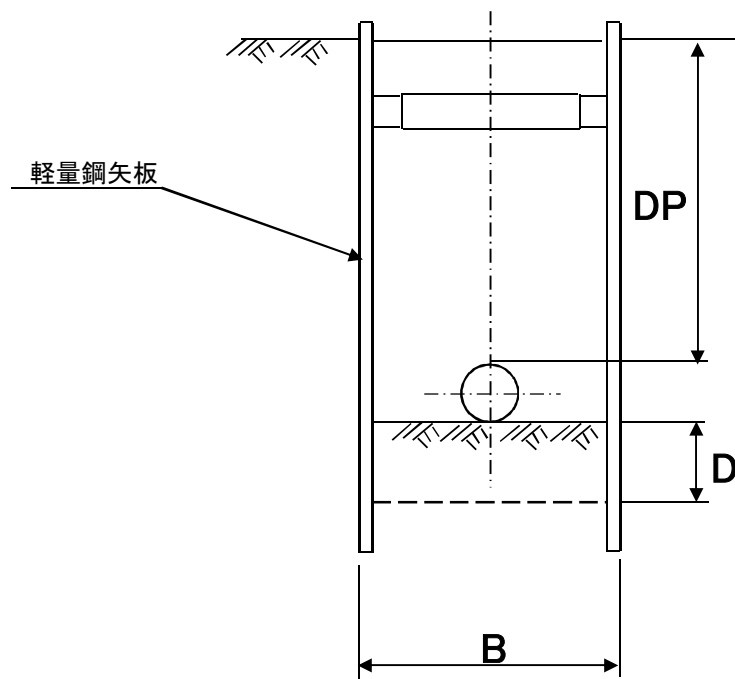
（Ⅴ）水道配水用ポリエチレン管標準配管図

（ I ） 標準掘削断面図

(I) 標準掘削断面図

軽量鋼矢板を使用する場合は、次の標準断面によることができる

※DP1.2mについては標準埋設深度であり、それよりも浅い深度については浅層埋設深度となる。



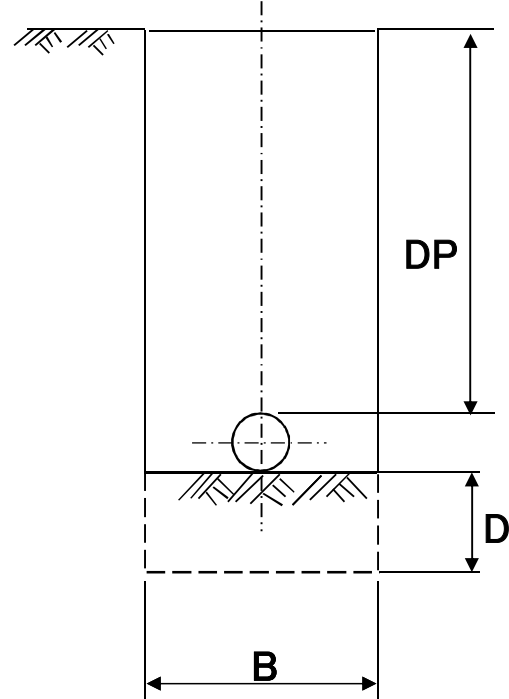
管径 (mm)	B (m)	DP (m)車道	DP (m)歩道	D (m)	L (m)	矢板長 (m)
50	0.90	0.80	0.80	0.3	0.5	1.5
50	0.90	1.00	1.00	0.3	0.5	1.5
50	0.90	1.20	1.20	0.3	0.5	1.5
75	0.90	0.80	0.80	0.3	0.5	1.5
75	0.90	1.20	1.20	0.3	0.5	1.5
100	0.90	0.80	0.80	0.3	0.5	1.5
100	0.90	1.20	1.20	0.3	0.5	2.0
150	0.90	0.80	0.80	0.3	0.5	1.5
150	0.90	1.20	1.20	0.3	0.5	2.0
200	0.90	0.90	0.80	0.3	0.5	1.5
200	0.90	1.20	1.20	0.3	0.5	2.0
250	0.90	0.90	0.80	0.3	0.5	1.5
250	0.90	1.20	1.20	0.3	0.5	2.0
300	0.90	1.00	0.90	0.3	0.5	2.0
300	0.90	1.20	1.20	0.3	0.5	2.0
400	1.00	1.20		0.6	0.8	2.5
500	1.10	1.30		0.6	0.8	2.5
600	1.20	1.50		0.6	0.8	2.5
700	1.50	1.50		0.6	0.8	2.5
800	1.60	1.50		0.6	0.8	3.0
900	1.90	1.50		0.6	0.8	3.0
1000	2.05	1.50		0.6	0.8	3.0

備考 D：会所掘の掘削深度

L：会所掘の掘削延長

機械掘削（バックホウ）、人力掘削による、標準掘削断面は次のとおりとする

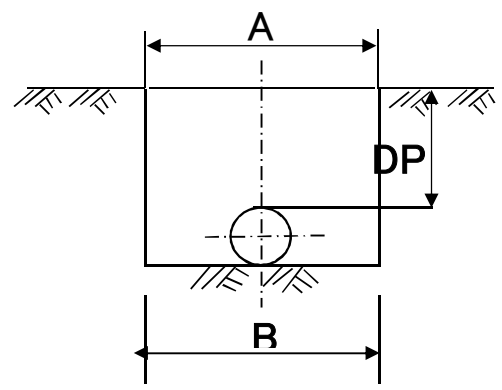
※DP1.2mについては標準埋設深度であり、
それよりも浅い深度については浅層埋設
深度となる。



管径 (mm)	B (m)	DP (m)車道	DP (m)歩道	D (m)	L (m)
50	0.60	0.80	0.80	0.3	0.5
50	0.60	1.00	1.00	0.3	0.5
50	0.60	1.20	1.20	0.3	0.5
75	0.60	0.80	0.80	0.3	0.5
75	0.60	1.20	1.20	0.3	0.5
100	0.60	0.80	0.80	0.3	0.5
100	0.60	1.20	1.20	0.3	0.5
150	0.60	0.80	0.80	0.3	0.5
150	0.60	1.20	1.20	0.3	0.5
200	0.60	0.90	0.80	0.3	0.5
200	0.60	1.20	1.20	0.3	0.5
250	0.65	0.90	0.80	0.3	0.5
250	0.65	1.20	1.20	0.3	0.5

備考 D：会所掘の掘削深度
L：会所掘の掘削延長

人力(仮設管布設)による、標準掘削断面は次のとおりとする



管径 (mm)	A (m)	B (m)	DP (m)
50	0.50	0.50	0.30
100	0.55	0.55	0.30
150	0.60	0.60	0.30
200	0.65	0.65	0.30

備考 仮設管(歩車道共)

標準給水掘削断面図

給水接続工

給水分岐工～公道配管～給水接続工A（メータ一直接接続 $\phi 13 \sim \phi 25$ ）

給水引き込み部

AS道（市道B）

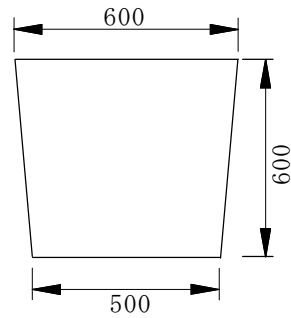
仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

AS道（市道C）

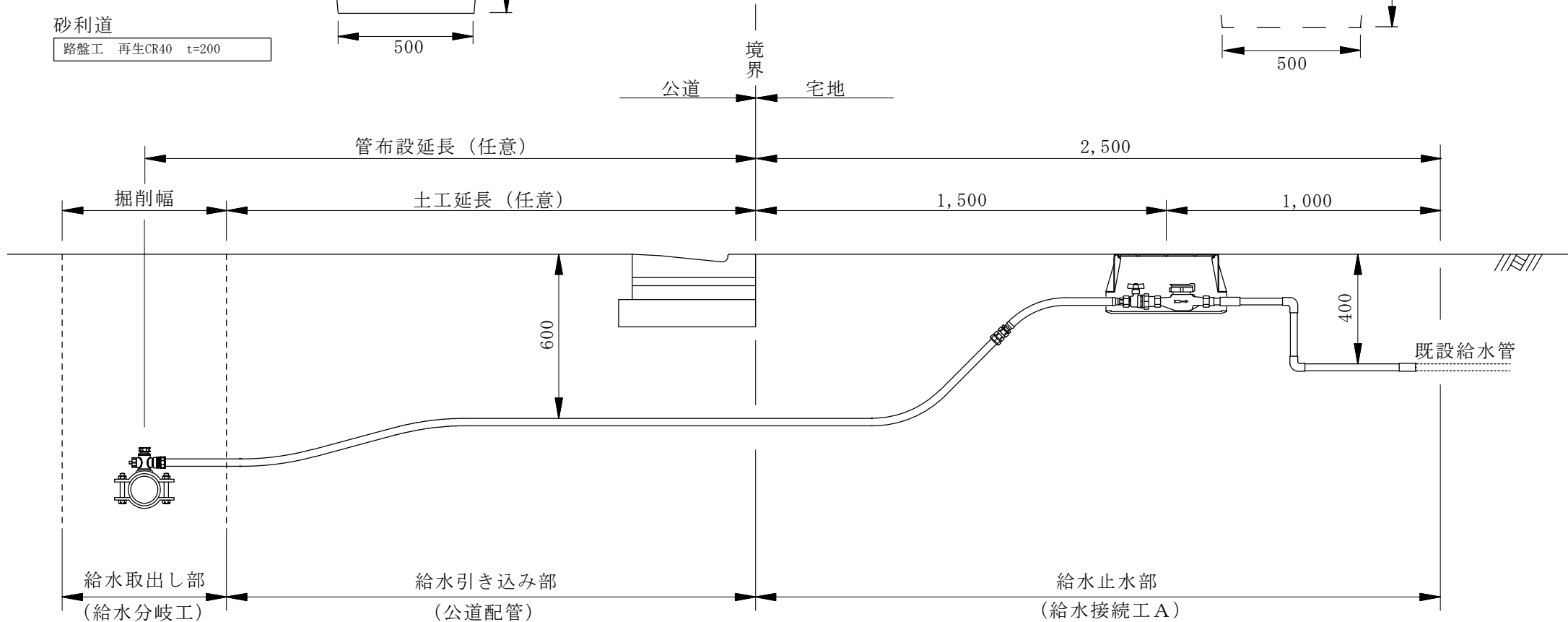
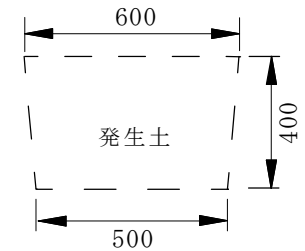
仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

砂利道

路盤工	再生CR40	t=200
-----	--------	-------



給水止水部



標準給水掘削断面図

給水接続工
給水分岐工～公道配管～給水接続工B（AS道、宅地）

給水引き込み部

給水止水部

AS道（市道B）

仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

AS道（市道C）

仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

砂利道

路盤工	再生CR40	t=200
-----	--------	-------

AS道（市道B）

仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

AS道（市道C）

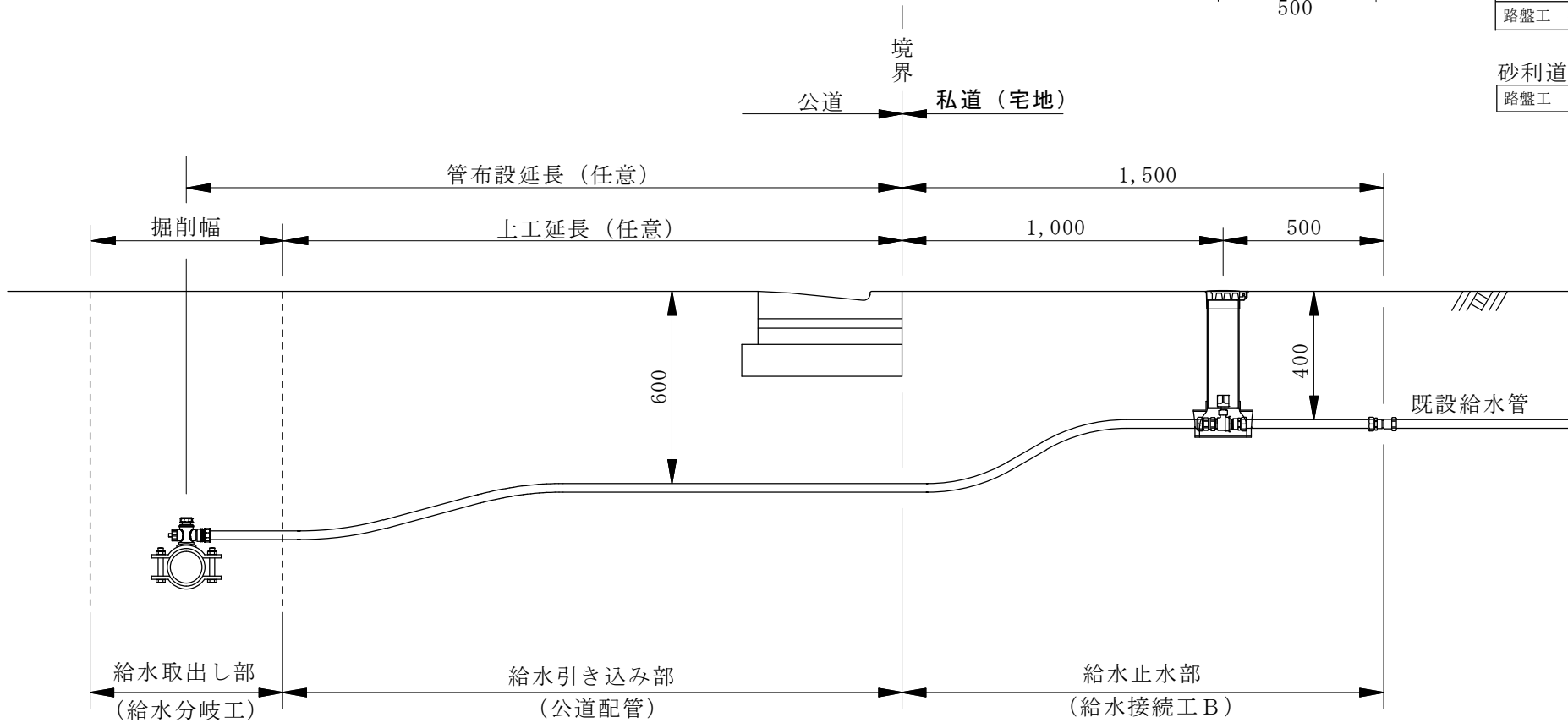
仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

AS道（私道）

仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=160

砂利道

路盤工	再生CR40	t=200
-----	--------	-------



標準給水掘削断面図

給水接続工

給水分岐工～公道配管～給水接続工A（メータ一直接接続 φ 50）

給水引き込み部

AS道（市道B）

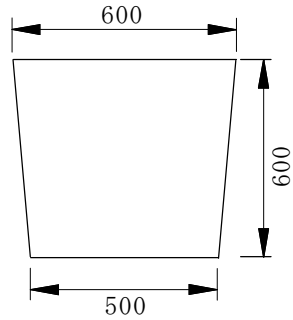
仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

AS道（市道C）

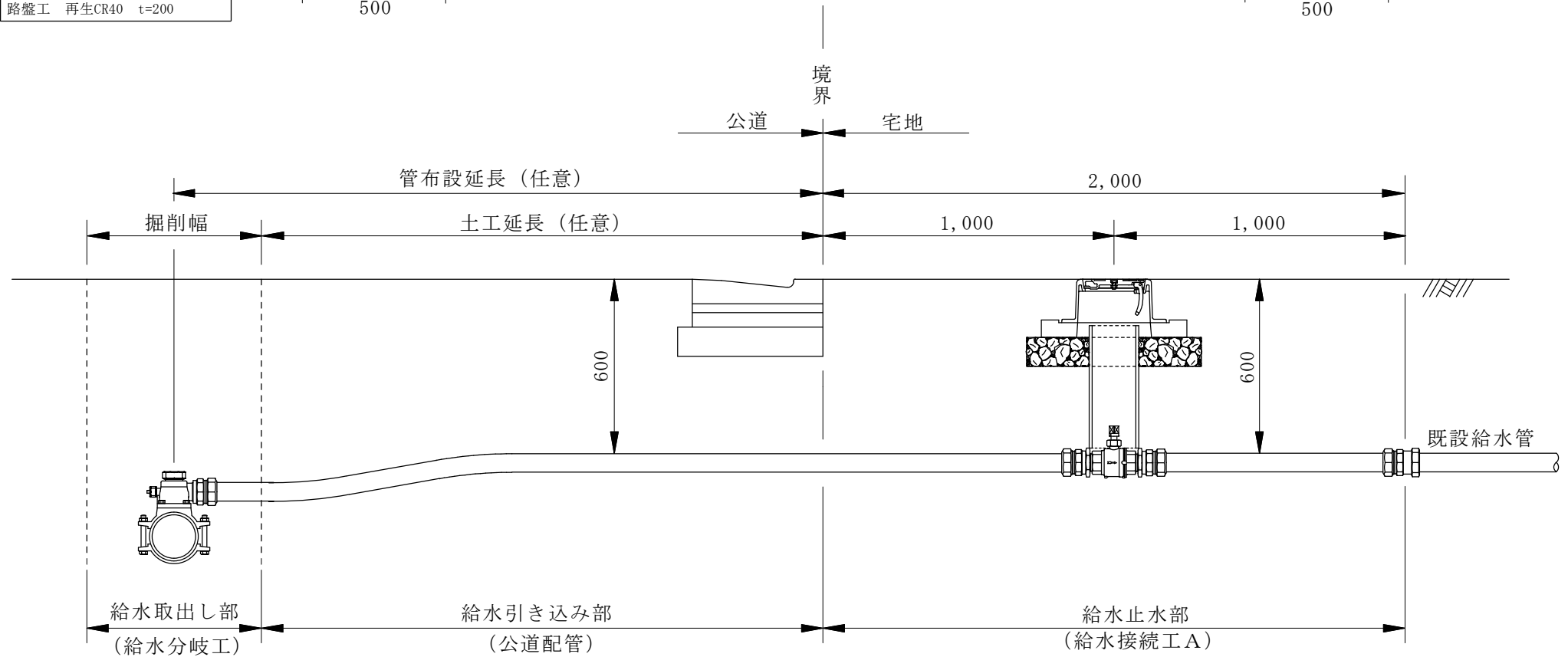
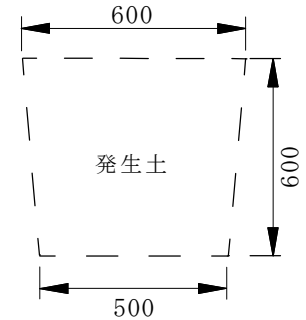
仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

砂利道

路盤工	再生CR40	t=200
-----	--------	-------



給水止水部



標準給水掘削断面図

給水接続工

給水分岐工～公道配管～給水接続工B（EF接合/私道部接続 φ 50）

給水引き込み部

給水止水部

AS道（市道B）

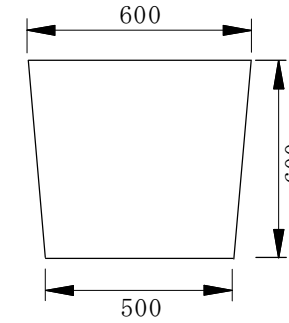
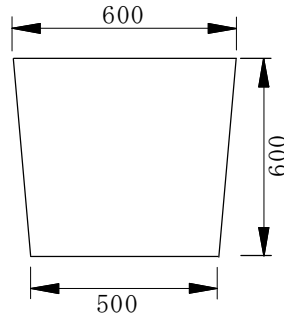
仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

AS道（市道C）

仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

砂利道

路盤工	再生CR40	t=200
-----	--------	-------



AS道（市道B）

仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

AS道（市道C）

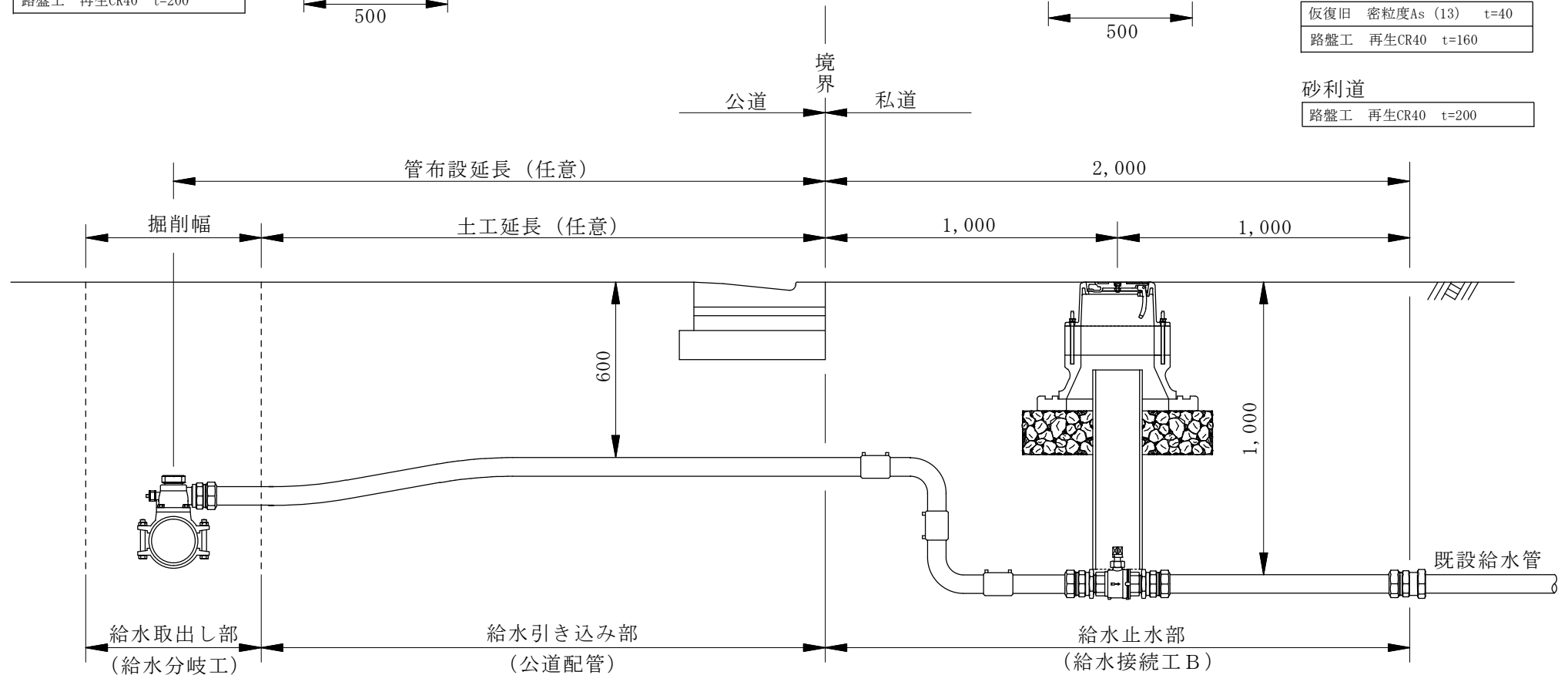
仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=260

AS道（私道）

仮復旧	密粒度As（13）	t=40
路盤工	再生CR40	t=160

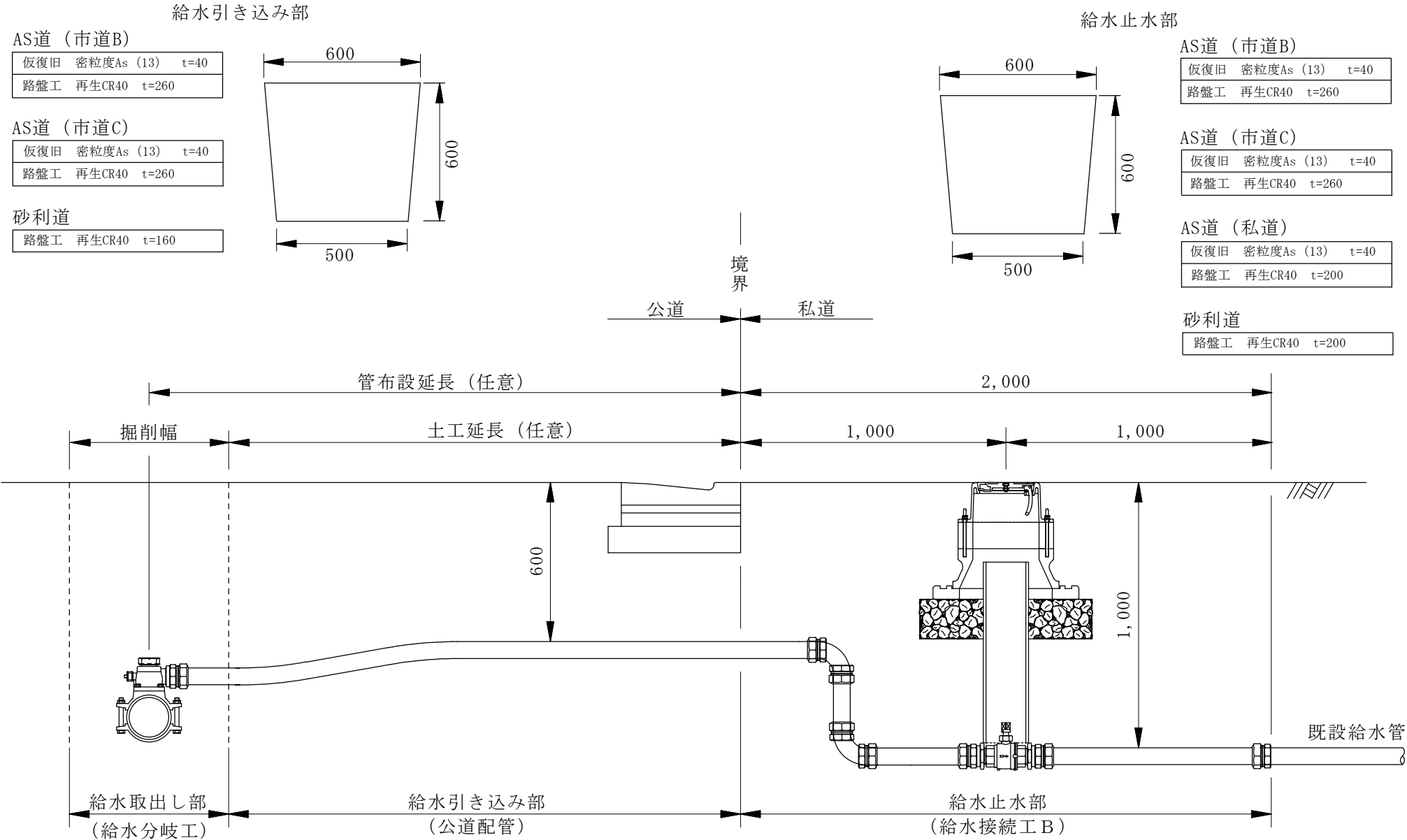
砂利道

路盤工	再生CR40	t=200
-----	--------	-------



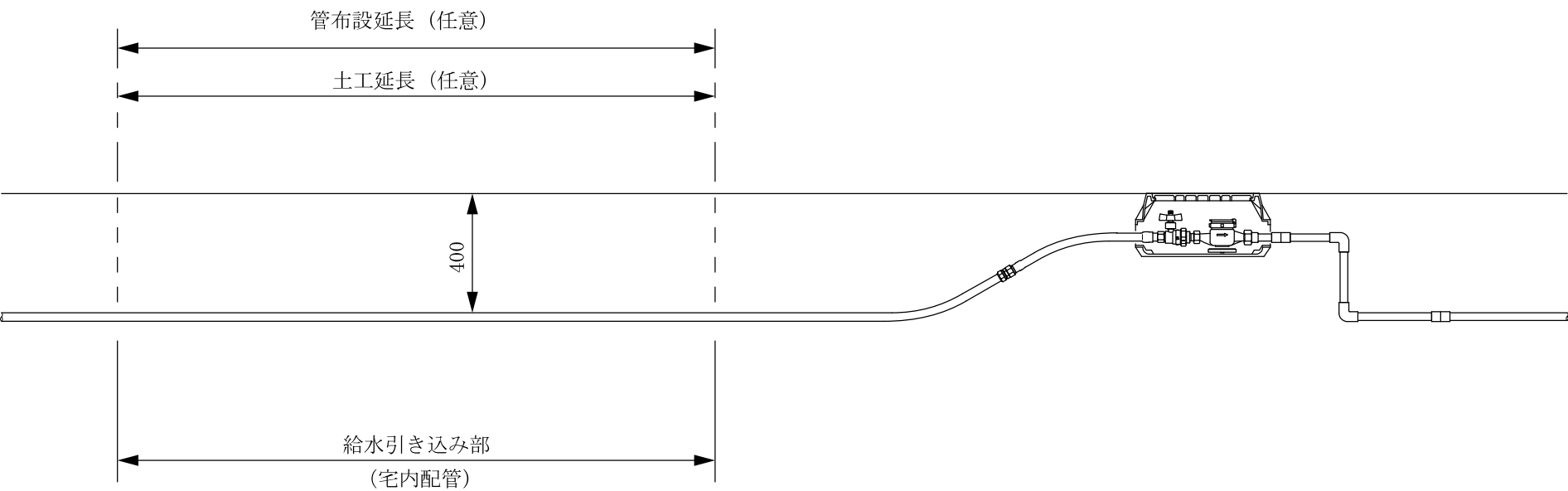
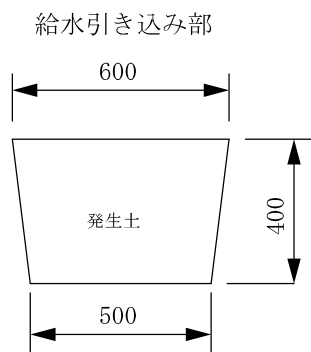
標準給水掘削断面図

給水接続工
給水分岐工～公道配管～給水接続工B（金属継手/私道部接続φ50）



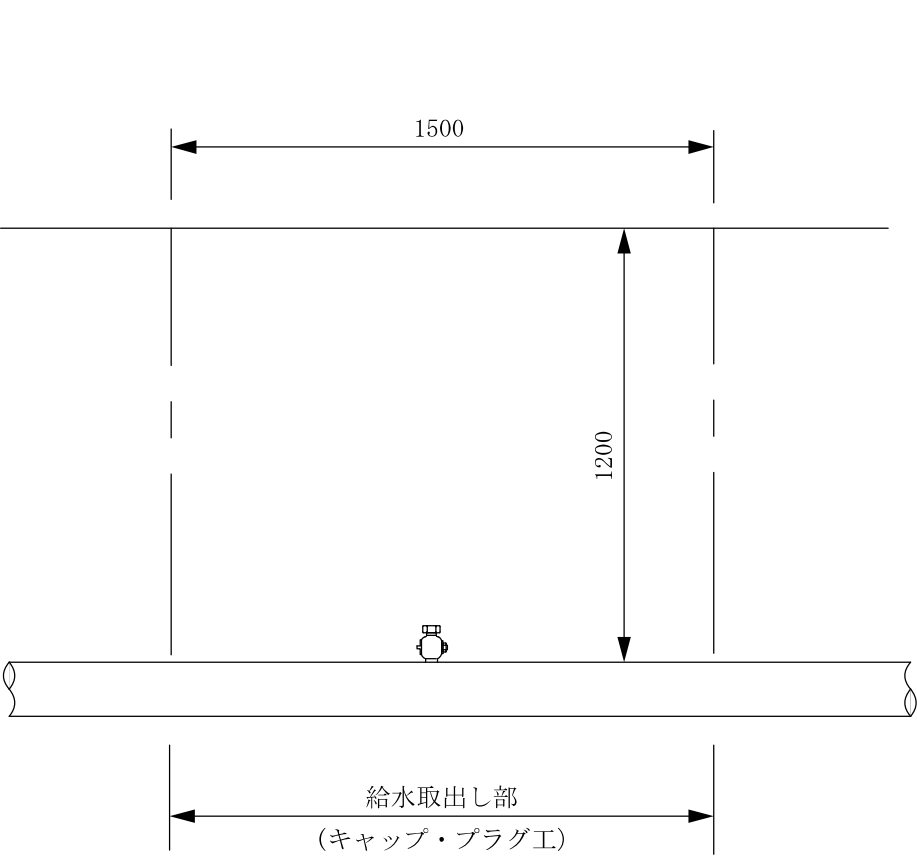
標準給水掘削断面図

給水接続工. 宅内配管

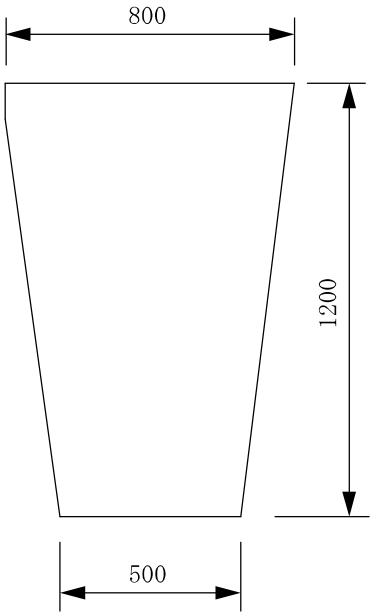


標準給水掘削断面図

給水接続工.
給水取出し部～キャップ・プラグ工



給水取出し部



AS道（市道B）			
仮復旧	密粒度As（13）	t=40	
路盤工	再生CR40	t=260	

AS道（市道C）			
仮復旧	密粒度As（13）	t=40	
路盤工	再生CR40	t=260	

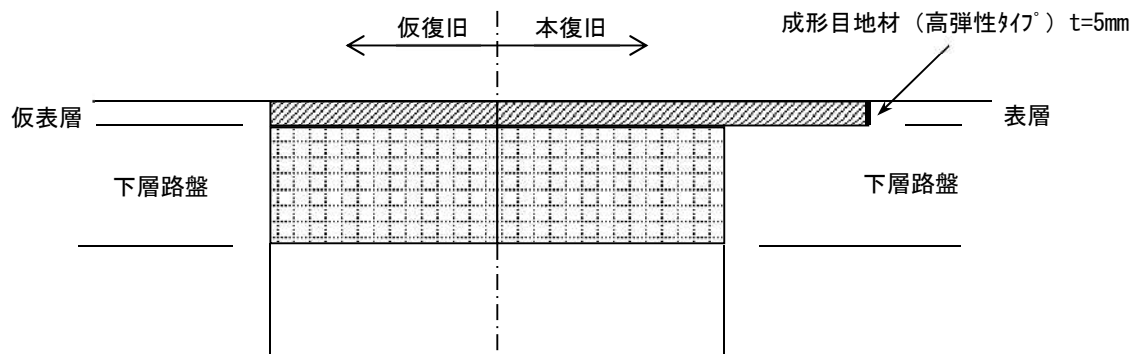
砂利道			
路盤工	再生CR40	t=200	

(Ⅱ) 路面復旧図

(Ⅱ) 路面復旧図

設計 CBR が判明している道路

N1 (舗装計画交通量 (台/日・方向) : $T < 15$)



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
3	5	-	15	5	-	-	-	15

〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)

下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※

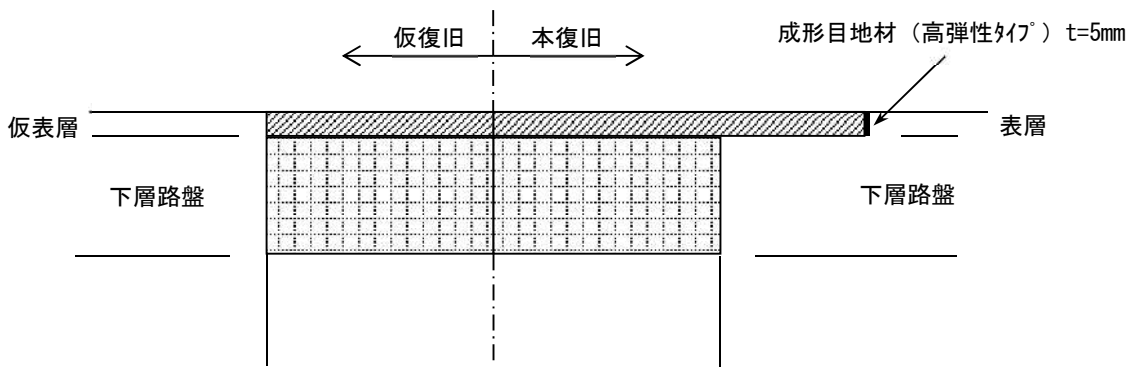
下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし, 下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ポリマー改質アスファルト I 型

設計 CBR が判明している道路

N2（舗装計画交通量（台/日・方向）： $15 \leq T < 40$ ）



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 砕石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 砕石	クラッシャーラン
3	5	－	25	5	－	－	－	25

〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)

下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※

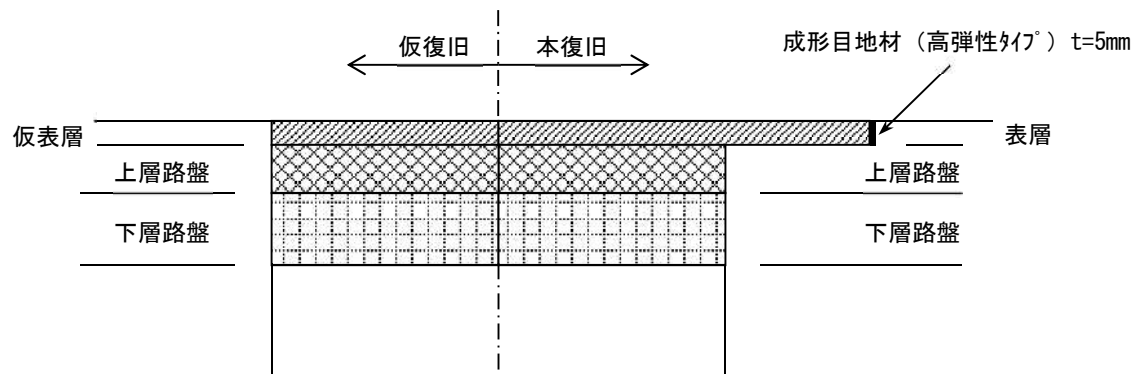
下層路盤 : クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし、下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホ ^レ リマー改質アスファルトⅠ型
第 1 種, 第 2 種, 第 3 種第 1 級・第 2 級, 第 4 種第 1 級 (道路区分)	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホ ^レ リマー改質アスファルトⅡ型 (動的安定度(DS)1,500回/mm以上)

設計 CBR が判明している道路

N3（舗装計画交通量（台/日・方向）： $40 \leq T < 100$ ）



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
3	5	15	12	5	-	-	15	12

〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)

上層路盤：粒度調整碎石(M-40)

下層路盤：クラッシャーラン(C-40)，再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※

上層路盤：粒度調整碎石(M-40)

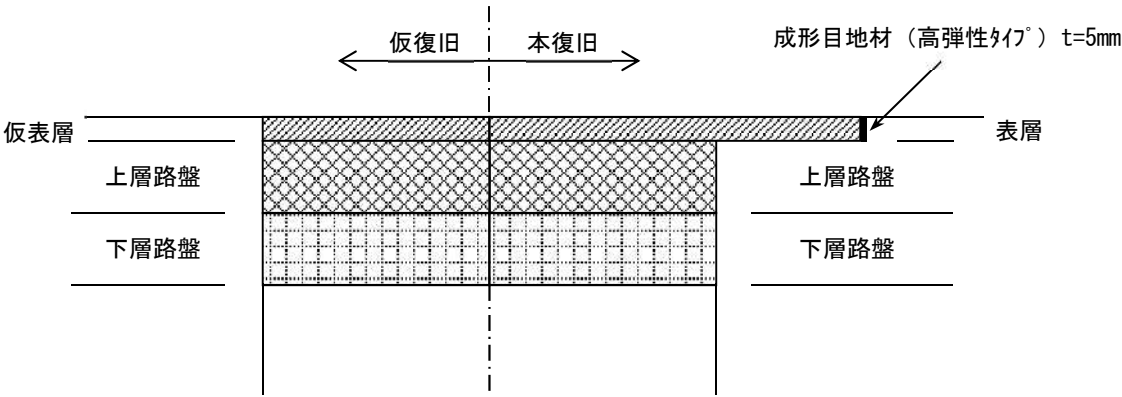
下層路盤：クラッシャーラン(C-40)，再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし，下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホ ^レ リマー改質アスファルトⅠ型
第 1 種，第 2 種，第 3 種第 1 級・第 2 級， 第 4 種第 1 級（道路区分）	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホ ^レ リマー改質アスファルトⅡ型 (動的安定度(DS)1,500 回/mm 以上)

設計 CBR が判明している道路

N4（舗装計画交通量（台/日・方向）： $100 \leq T < 250$ ）



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
3	5	15	35	5	-	-	15	35
4		20	25			-	20	25
6		15	25			-	15	25
8		15	15			-	15	15
12		15	12			-	15	12

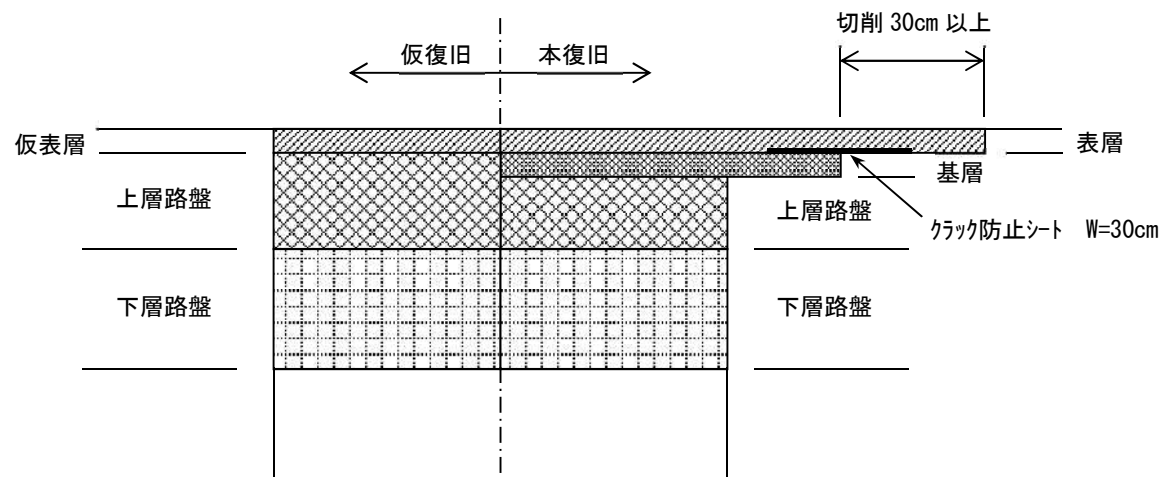
- 〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)
 上層路盤: 粒度調整碎石(M-40)
 下層路盤: クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)
- 〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※
 上層路盤: 粒度調整碎石(M-40)
 下層路盤: クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし、下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホ ^レ リマー改質アスファルトⅠ型
第 1 種, 第 2 種, 第 3 種第 1 級・第 2 級, 第 4 種第 1 級 (道路区分)	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホ ^レ リマー改質アスファルトⅡ型 (動的安定度(DS)1,500回/mm以上)

設計 CBR が判明している道路

N5（i）（舗装計画交通量（台/日・方向）：250≦T<625）



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 砕石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 砕石	クラッシャーラン
3	5	30	30	5	5	－	25	30
4		20	35			－	15	35
6		20	25			－	15	25
8		20	15			－	15	15
12		15	15			－	10	15

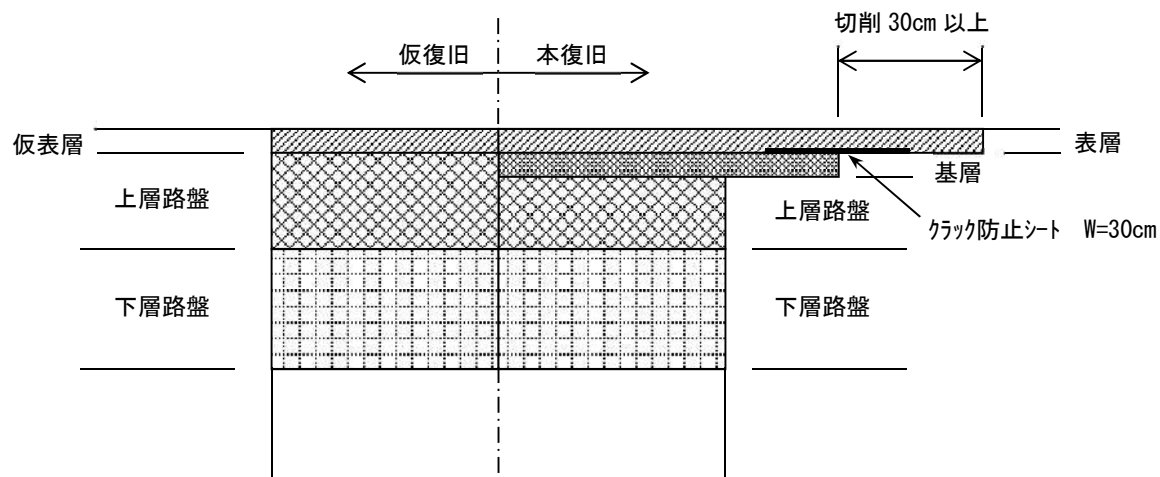
- 〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)
上層路盤: 粒度調整碎石(M-40)
下層路盤: クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)
- 〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※
基層 : ②粗粒度アスコン(20)
上層路盤: 粒度調整碎石(M-25 or M-40)
下層路盤: クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし、下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホリマー改質アスファルトⅠ型
第 1 種, 第 2 種, 第 3 種第 1 級・第 2 級, 第 4 種第 1 級 (交差点部および道路区分)	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホリマー改質アスファルトⅡ型 (動的安定度(DS)1,500 回/mm 以上)

設計 CBR が判明している道路

N5（ii）（舗装計画交通量（台/日・方向）：625≦T<1,000）



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 砕石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 砕石	クラッシャーラン
3	5	35	35	5	5	－	30	35
4		30	30			－	25	30
6		25	25			－	20	25
8		20	25			－	15	25
12		20	15			－	15	15

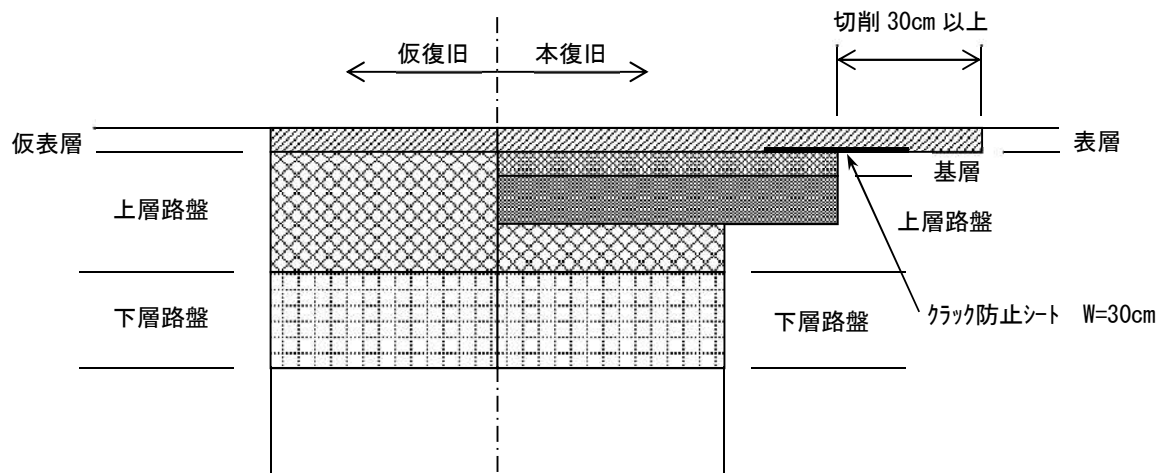
- 〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)
上層路盤: 粒度調整碎石(M-40)
下層路盤: クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)
- 〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※
基層 : ②粗粒度アスコン(20)
上層路盤: 粒度調整碎石(M-25 or M-40)
下層路盤: クラッシャーラン(C-40), 再生クラッシャーラン(RC-40)又はアスファルト再生クラッシャーラン(ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし、下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホリマー改質アスファルトⅠ型
第 1 種, 第 2 種, 第 3 種第 1 級・第 2 級, 第 4 種第 1 級 (交差点部および道路区分)	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホリマー改質アスファルトⅡ型 (動的安定度(DS)1,500 回/mm 以上)

設計 CBR が判明している道路

N6 (i) (舗装計画交通量 (台/日・方向) : $1,000 \leq T < 2,000$)



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
6	5	25	35	5	5	5	15	35
8		30	20				20	20
12		25	15				15	15
20		20	12				10	12

〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)

上層路盤 : 粒度調整碎石 (M-25 or M-40)

下層路盤 : クラッシャーラン (C-40), 再生クラッシャーラン (RC-40) 又はアスファルト再生クラッシャーラン (ARC-40)

〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン(新 20FH)・・・※

基層 : ②粗粒度アスコン(20)

上層路盤 : ①アスファルト安定処理(25), 粒度調整碎石 (M-25 or M-40)

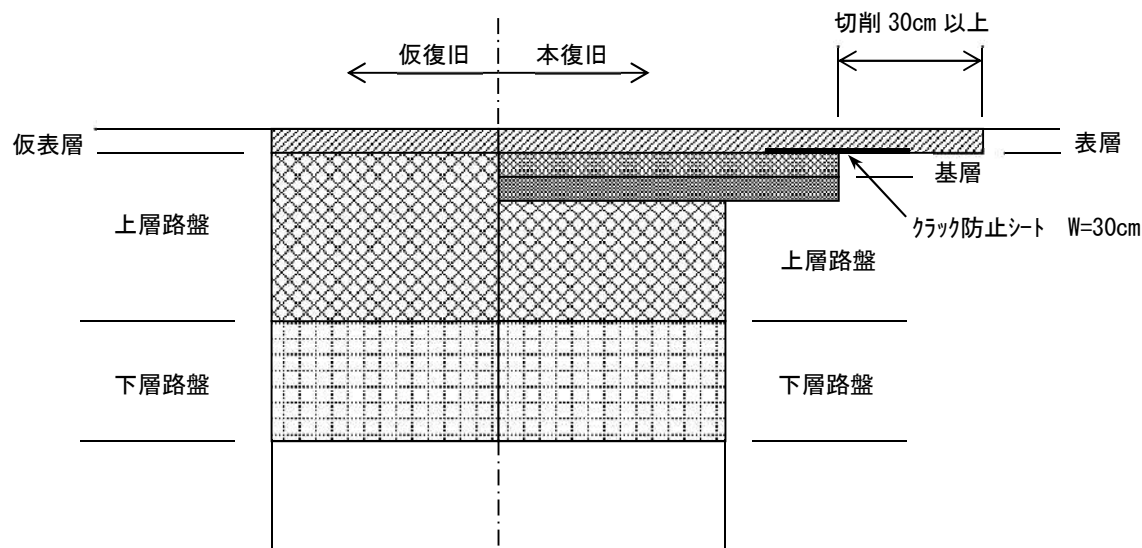
下層路盤 : クラッシャーラン (C-40), 再生クラッシャーラン (RC-40) 又はアスファルト再生クラッシャーラン (ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし, 下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホリマー改質アスファルトⅠ型
第1種, 第2種, 第3種第1級・第2級, 第4種第1級 (交差点部および道路区分)	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホリマー改質アスファルトⅡ型 (動的安定度 (DS) 1,500 回/mm 以上)

設計 CBR が判明している道路

N6（ii）（舗装計画交通量（台/日・方向）：2,000≦T<3,000）



設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
6	5	40	30	5	5	5	30	30
8		35	25				25	25
12		30	20				20	20
20		25	12				15	12

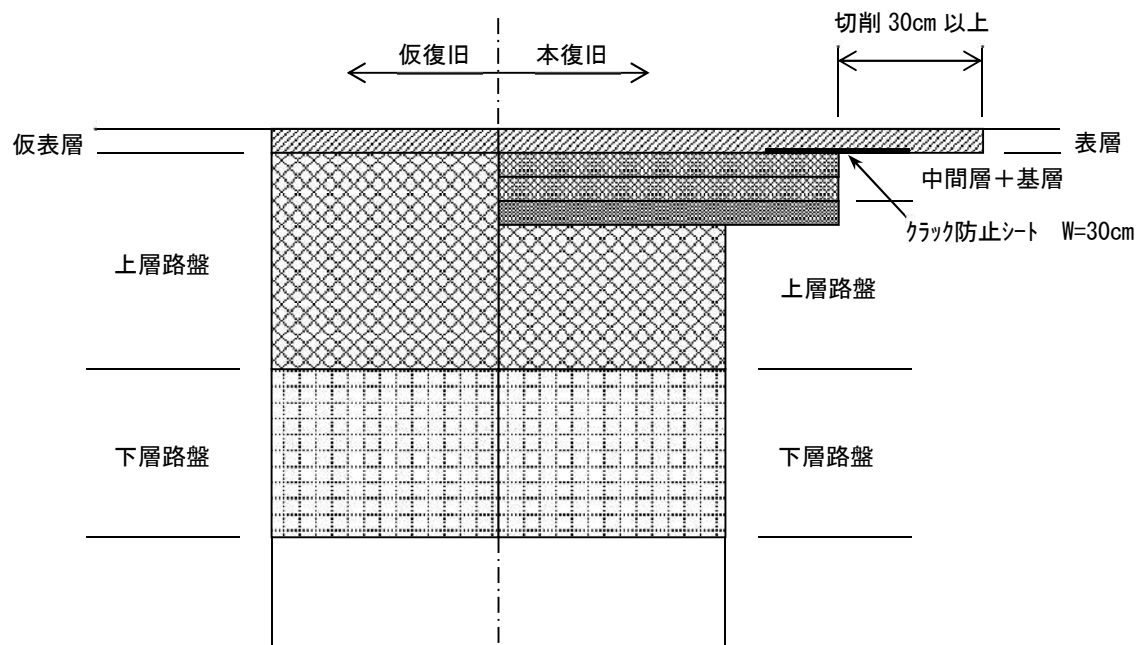
- 〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)
- 上層路盤 : 粒度調整碎石 (M-25 or M-40)
- 下層路盤 : クラッシャーラン (C-40), 再生クラッシャーラン (RC-40) 又はアスファルト再生クラッシャーラン (ARC-40)
- 〔本復旧〕 表層 : ⑤密粒度アスコン (新 20FH) ・ ・ ・ ※
- 基層 : ②粗粒度アスコン (20)
- 上層路盤 : ①アスファルト安定処理 (25), 粒度調整碎石 (M-25 or M-40)
- 下層路盤 : クラッシャーラン (C-40), 再生クラッシャーラン (RC-40) 又はアスファルト再生クラッシャーラン (ARC-40)

※表層材料は上記を標準とし、下記区分により適切な材料を使用すること。

区分	混合物の種類
橋面舗装・消融雪施設設置箇所・ 縦断勾配 6%を超える箇所	⑦密粒度アスコン(新 20FH)再生材+ホリマー改質アスファルトⅠ型
第1種、第2種、第3種第1級・第2級、 第4種第1級（交差点部および道路区分）	⑥密粒度アスコン(新 20FH)ホリマー改質アスファルトⅡ型 (動的安定度 (DS) 1,500 回/mm 以上)

設計 CBR が判明している道路

N7（舗装計画交通量（台/日・方向）：3,000≦T）

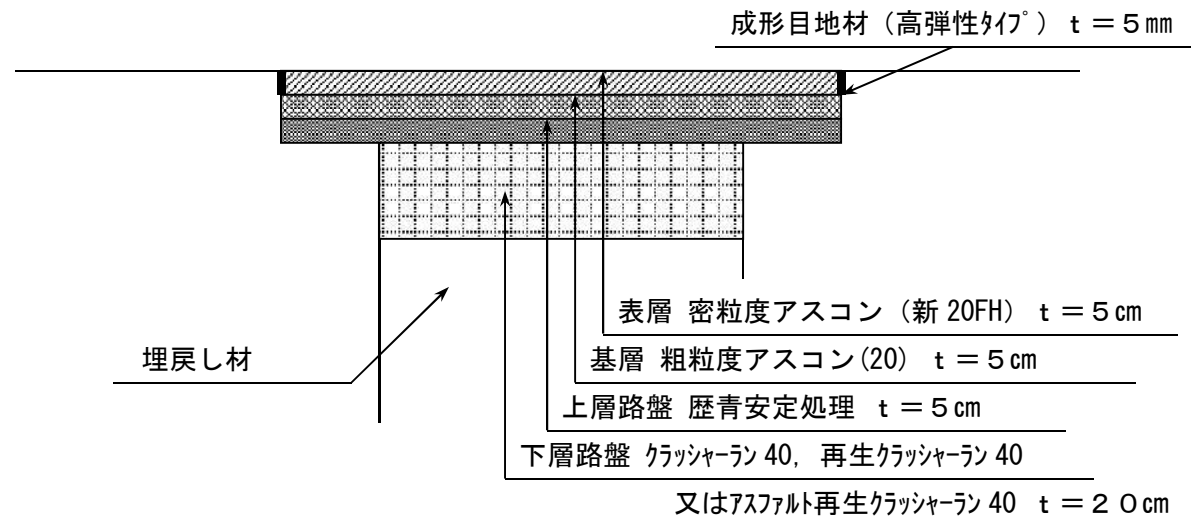


設計 CBR	仮復旧			本復旧				
	仮表層 (cm)	上層路盤 (cm)	下層路盤 (cm)	表層 (cm)	中間層 + 基層 (cm)	上層路盤 (cm)		下層路盤 (cm)
	加熱 アスファルト 混合物	粒度調整 碎石	クラッシャーラン	加熱アスファルト混合物		アスファルト 安定処理	粒度調整 碎石	クラッシャーラン
6	5	50	40	5	5+5	5	35	40
8		45	35				30	35
12		30	35				15	35
20		30	20				15	20

- 〔仮復旧〕 表層 : ⑧密粒度アスコン(13)
上層路盤 : 粒度調整碎石 (M-40)
下層路盤 : クラッシャーラン (C-40), 再生クラッシャーラン (RC-40) 又はアスファルト再生クラッシャーラン (ARC-40)
- 〔本復旧〕 表層 : ⑥密粒度アスコン (新 20FH) ホ^レ リマ-改質アスファルトⅡ型 (動的安定度 (DS) 3,000 回/mm 以上)
中間層, 基層 : ②粗粒度アスコン (20)
上層路盤 : ①アスファルト安定処理 (25), 粒度調整碎石 (M-40)
下層路盤 : クラッシャーラン (C-40), 再生クラッシャーラン (RC-40) 又はアスファルト再生クラッシャーラン (ARC-40)

A 断面（都市計画街路及び主要幹線道路）

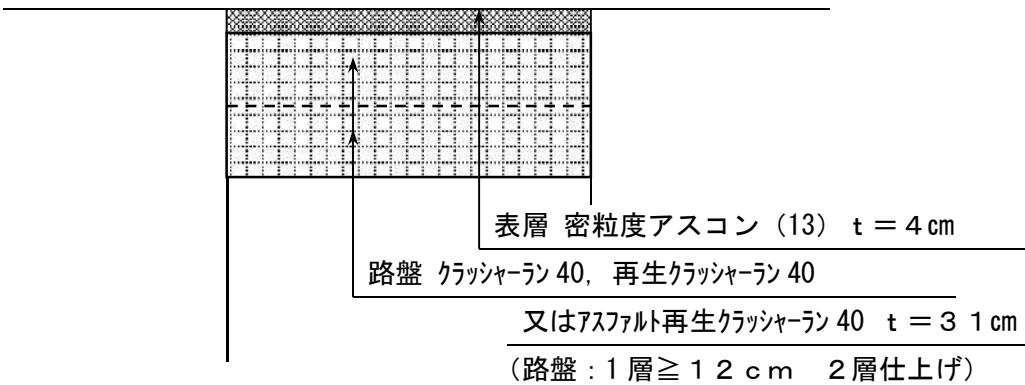
本 復 旧



※埋戻し材（山砂、良質土又は改良土 $\geq$ CBR 8 グリズリアンダー材 $\geq$ CBR 12）

※表層工において、必要に応じ、基層と在来舗装のジョイント部にクラック防止シートを施すこと。

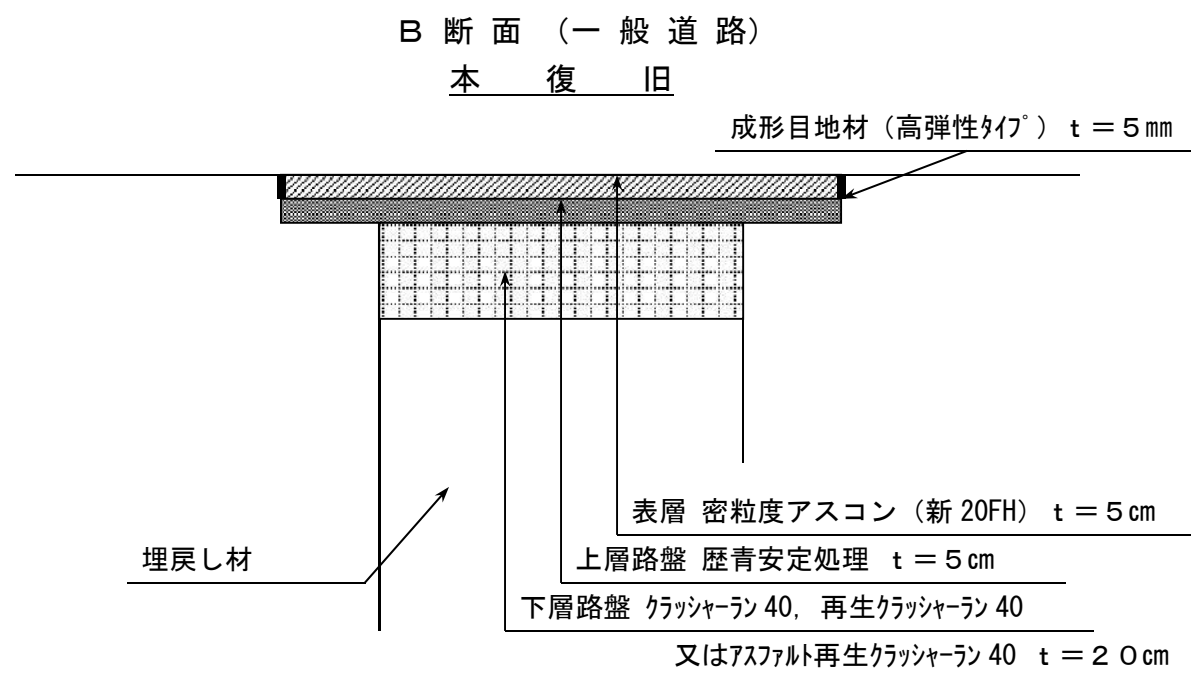
仮 復 旧



区分	適用	混合物の種類
一般部	橋面舗装 消融雪施設設置箇所	密粒度アスコン（新 20FH）改質Ⅰ型
すべり止め	縦断勾配 6%を超える箇所	
交差点部	交差点前後 50m 程度 （交差点内を含む）	密粒度アスコン（新 20FH）改質Ⅱ型（DS1500 以上）

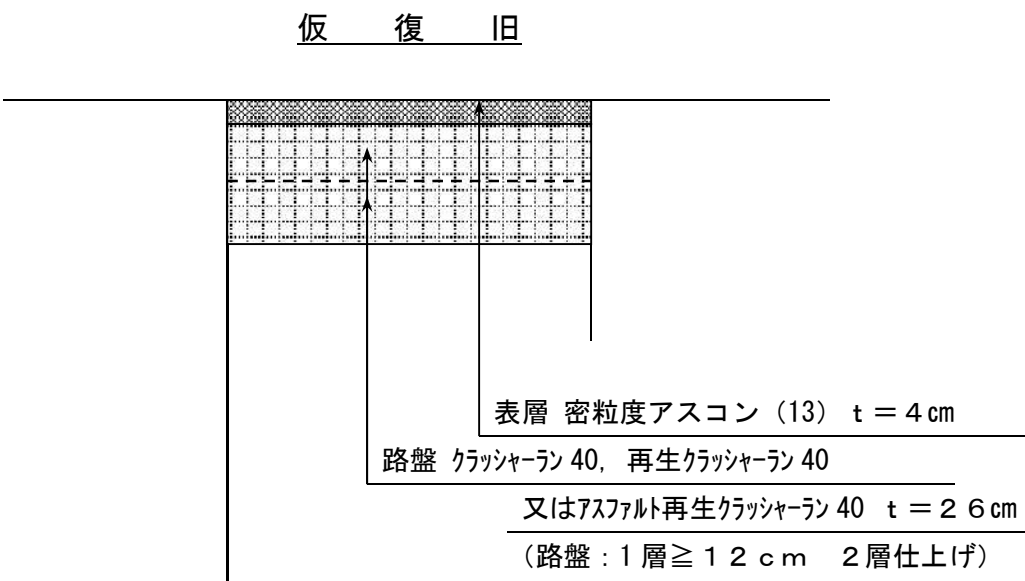
※上記表層材料を標準とするが、人力により施工を行う場合、密粒度アスコン 13F を使用することができる。

設計 CBR が判明していない道路



※埋戻し材（山砂、良質土又は改良土 $\geq$ CBR 8 グリズリアンダー材 $\geq$ CBR 12）

※表層工において、必要に応じ、上層路盤と在来舗装のジョイント部にクラック防止シートを施すこと。

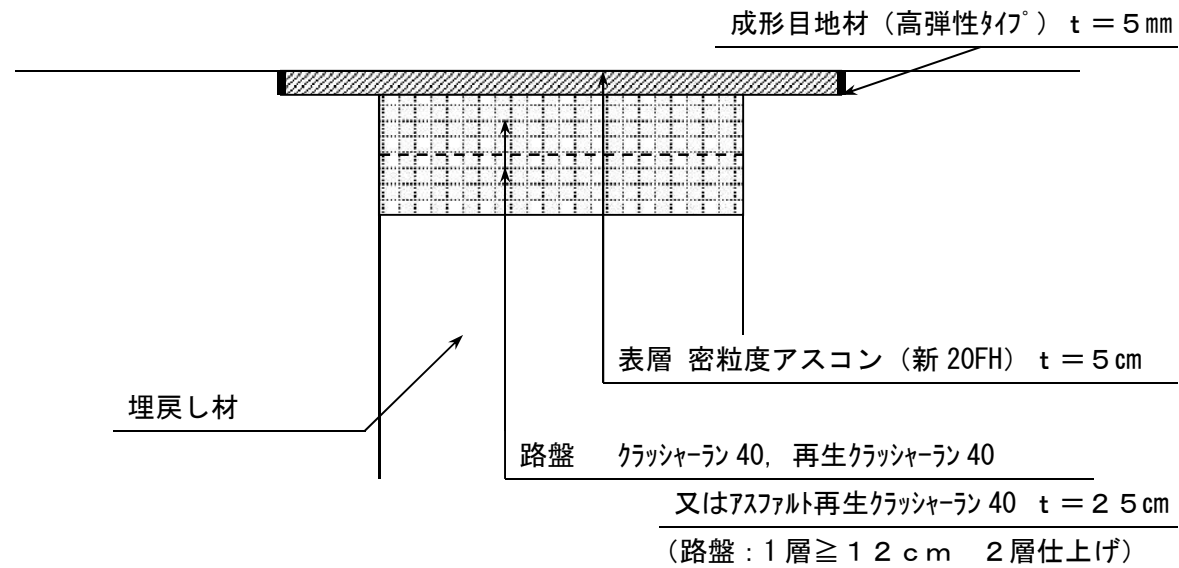


区分	適用	混合物の種類
一般部	橋面舗装 消融雪施設設置箇所	密粒度アスコン（新 20FH）改質 I 型
すべり止め	縦断勾配 6%を超える箇所	

※上記表層材料を標準とするが、人力により施工を行う場合、密粒度アスコン 13F を使用することができる。

C 断 面 （幅員 6 m 以下の生活道路で全幅打換えのとき）

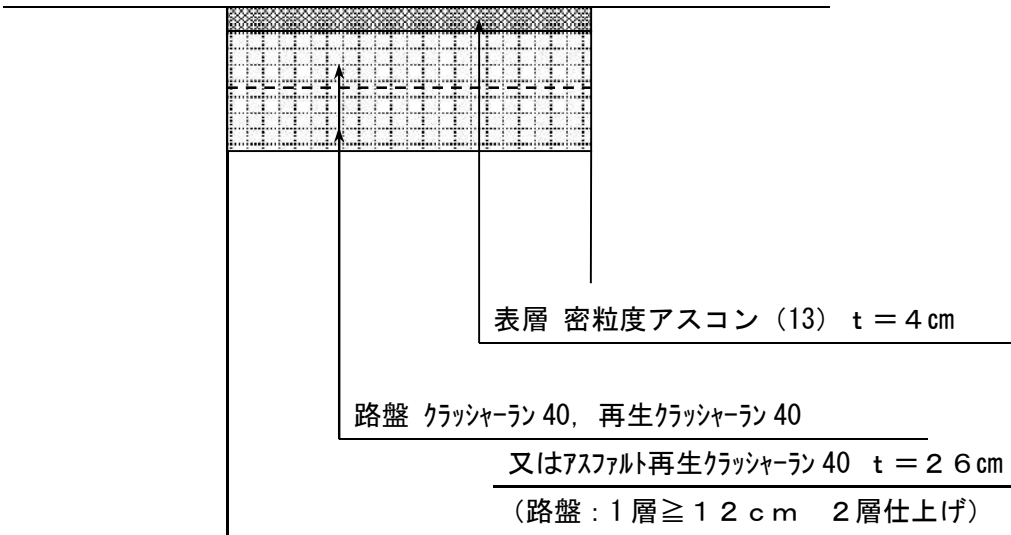
本 復 旧



※埋戻し材（山砂、良質土又は改良土 ≥ CBR 8 グリズリアンダー材 ≥ CBR 1 2）

※成形目地材は、在来舗装とのジョイント部に施工すること。

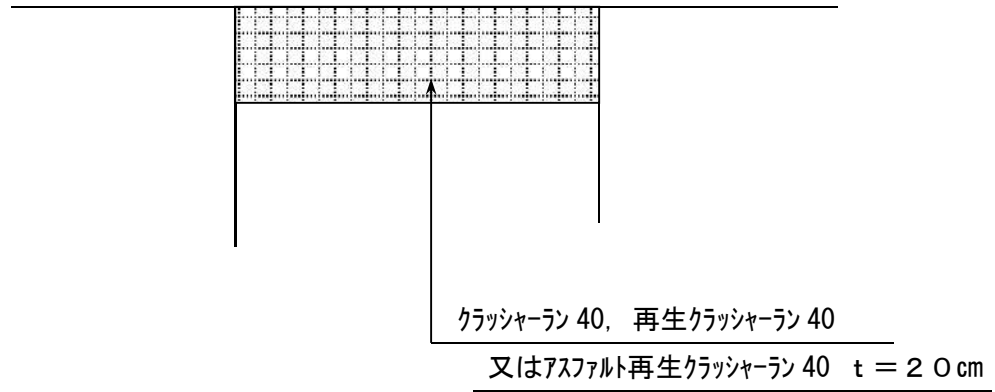
仮 復 旧



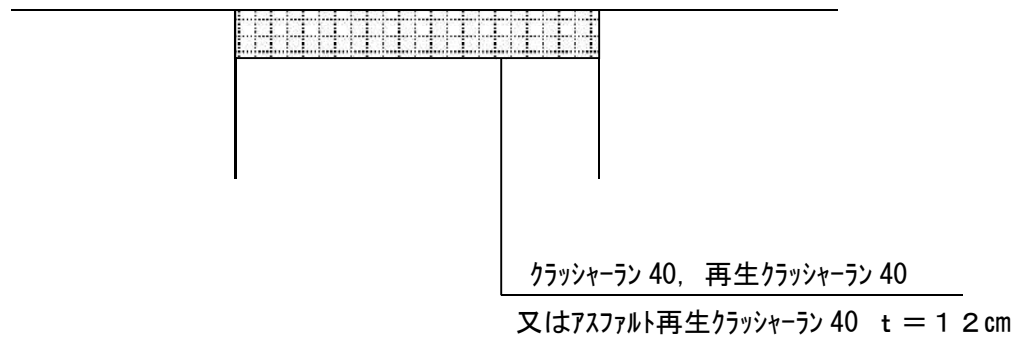
区分	適用	混合物の種類
一般部	橋面舗装 消融雪施設設置箇所	密粒度アスコン（新 20FH）改質 I 型
すべり止め	縦断勾配 6%を超える箇所	

砂 利 道 復 旧

砂 利 道 復 旧

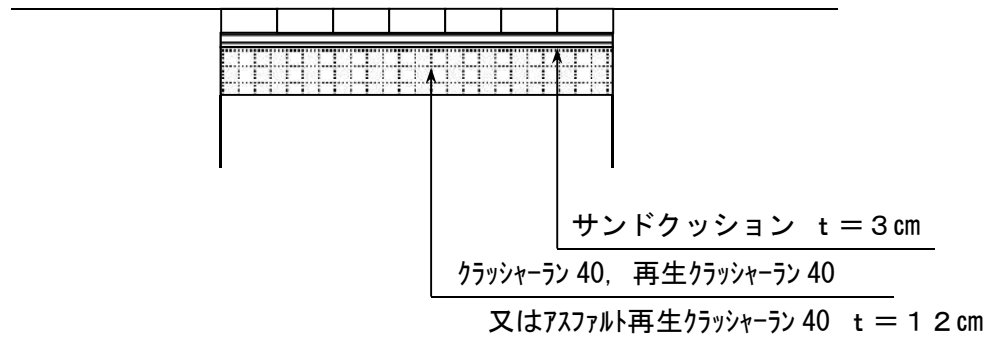


砂 利 散 歩 道



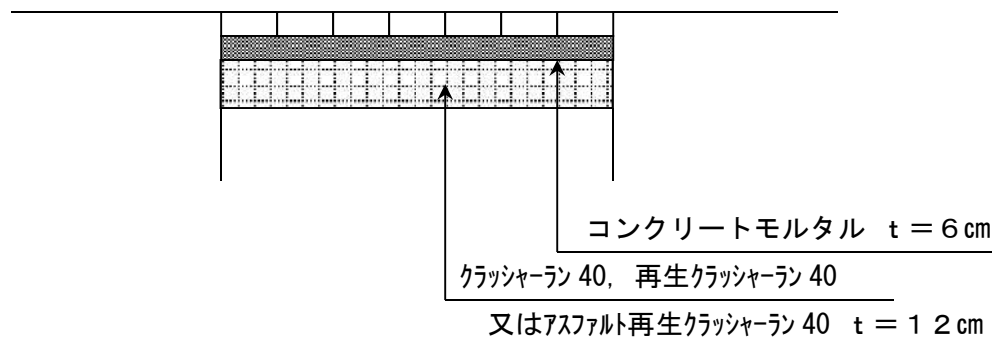
歩道舗装復旧

平板ブロック 1

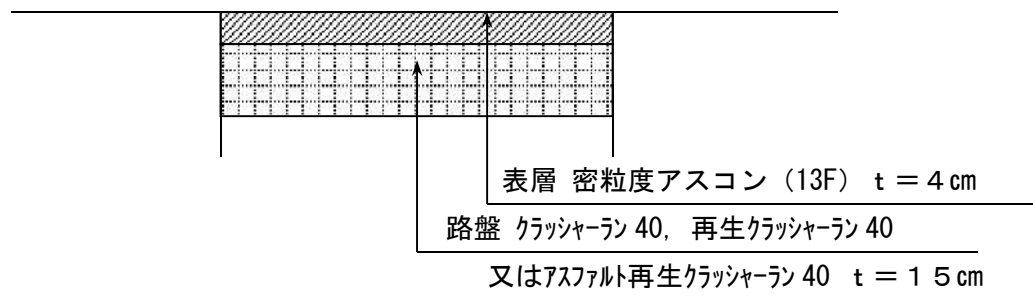


平板ブロック 2

商店街における化粧ブロックなど現道が
コンクリートベースのもの



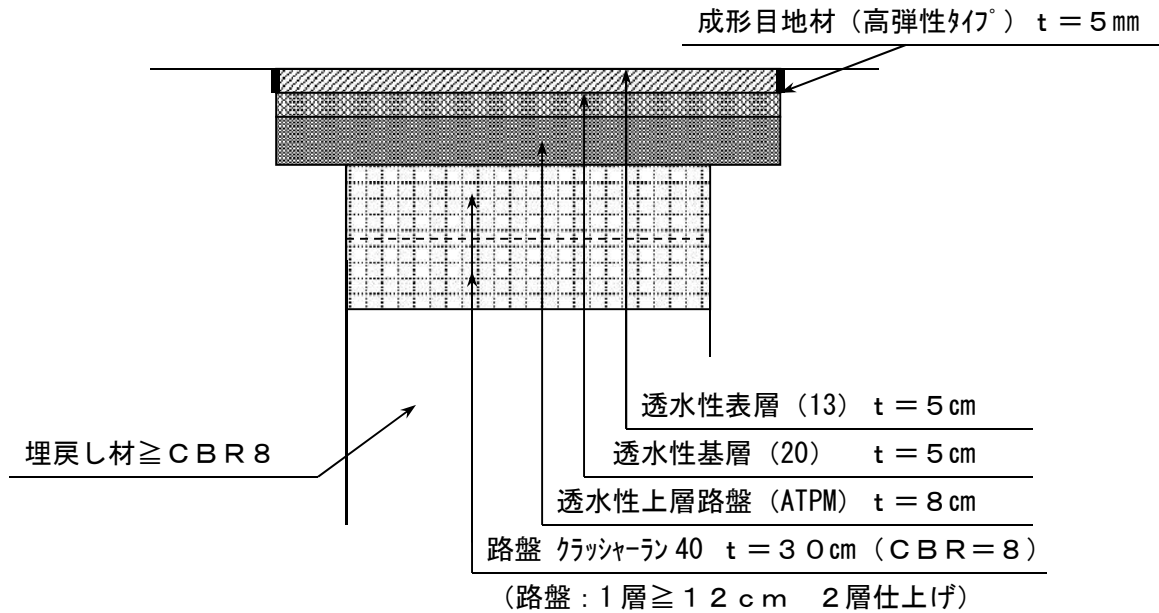
アスファルト舗装



※現道の舗装構成に合わせることを原則とし、全幅打換える場合は上記構成とすること。

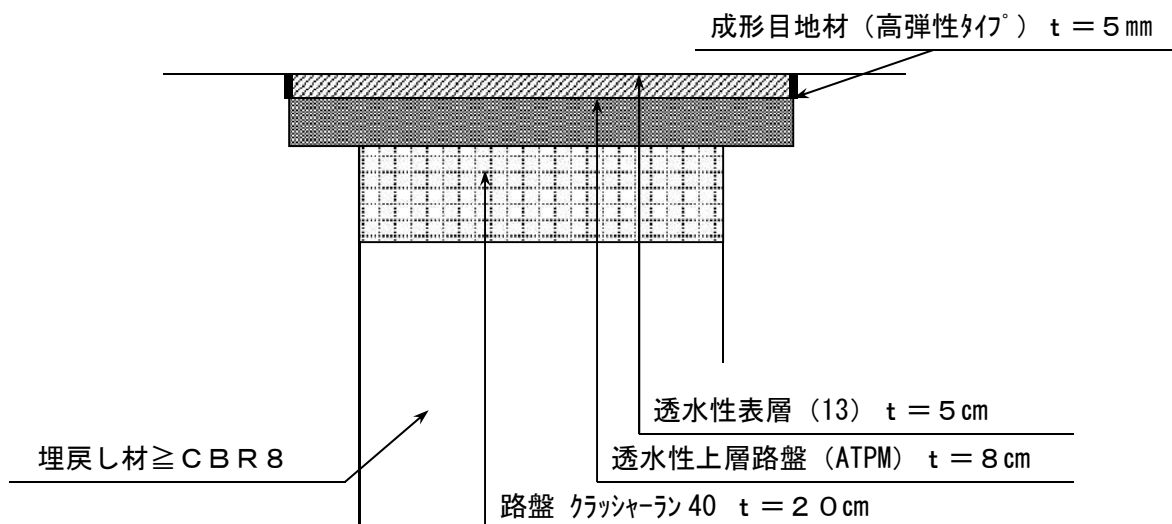
A 断面（都市計画街路及び主要幹線道路）

本 復 旧



B 断面（一般道路）

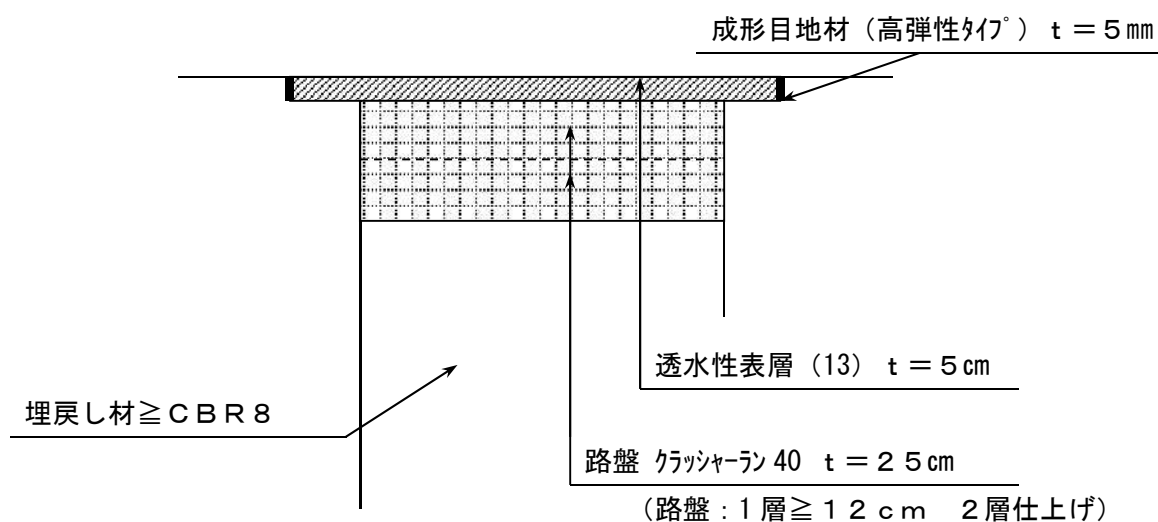
本 復 旧



※透水性舗装は、新潟市舗装研究会による「車道透水性舗装の手引き」（平成19年度改定版）に準ずること。

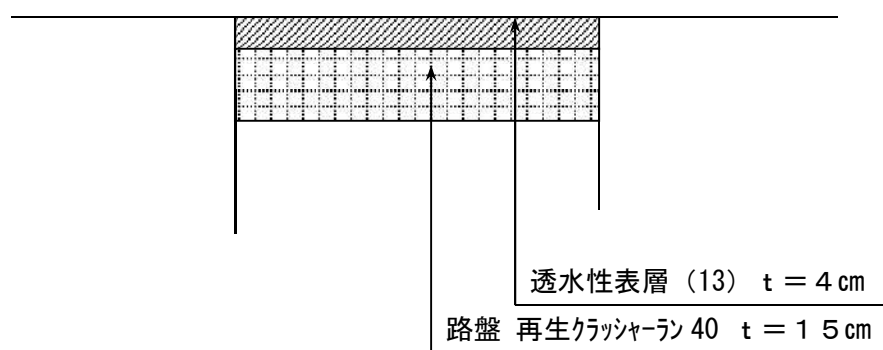
C 断面（幅員 6 m 以下の生活道路で全幅打換えのとき）

本 復 旧



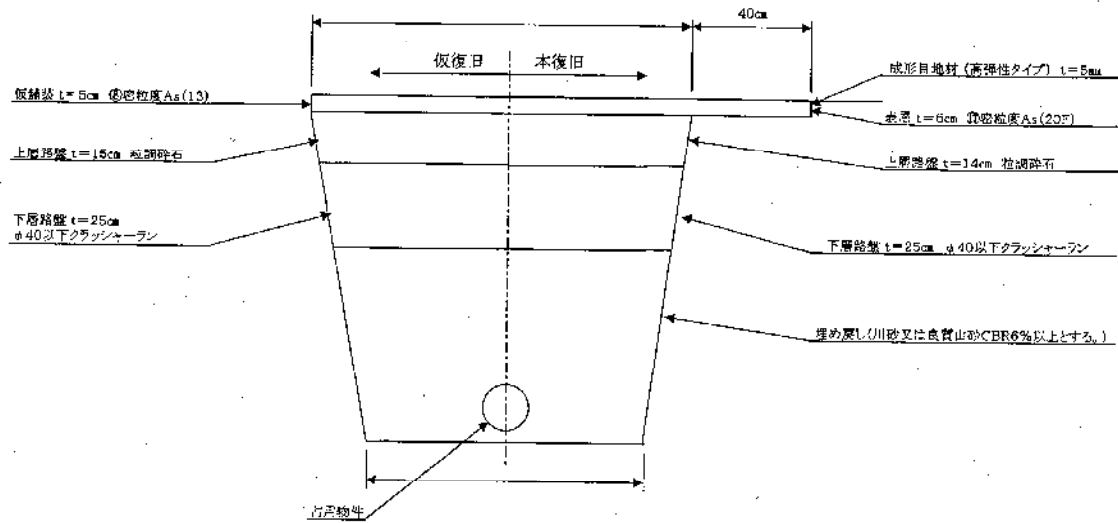
※成形目地材は、在来舗装とのジョイント部に施工すること。

歩 道



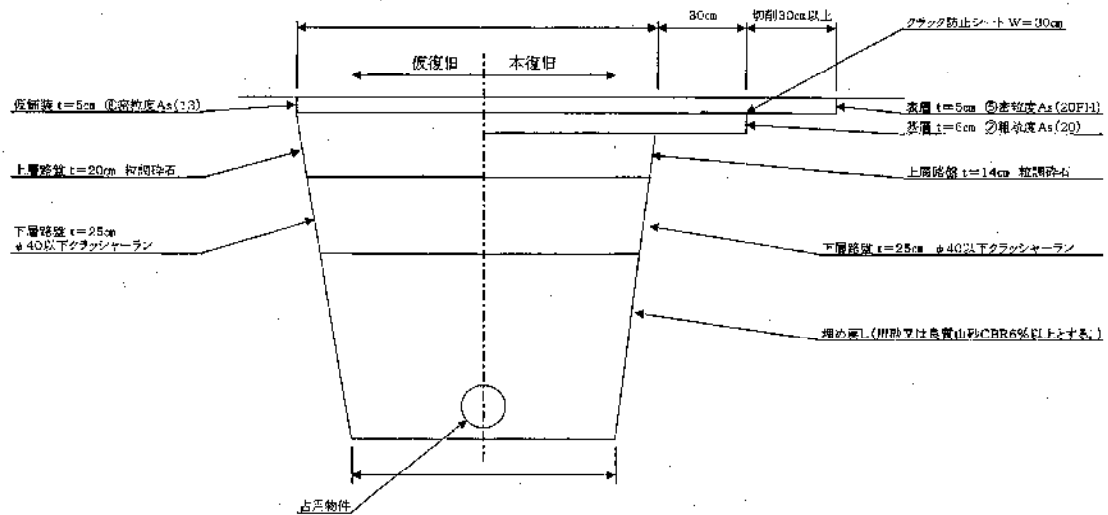
※透水性舗装は、新潟市舗装研究会による「車道透水性舗装の手引き」（平成 19 年度改定版）に準ずること。

A交通 非スベリ止復旧断面図



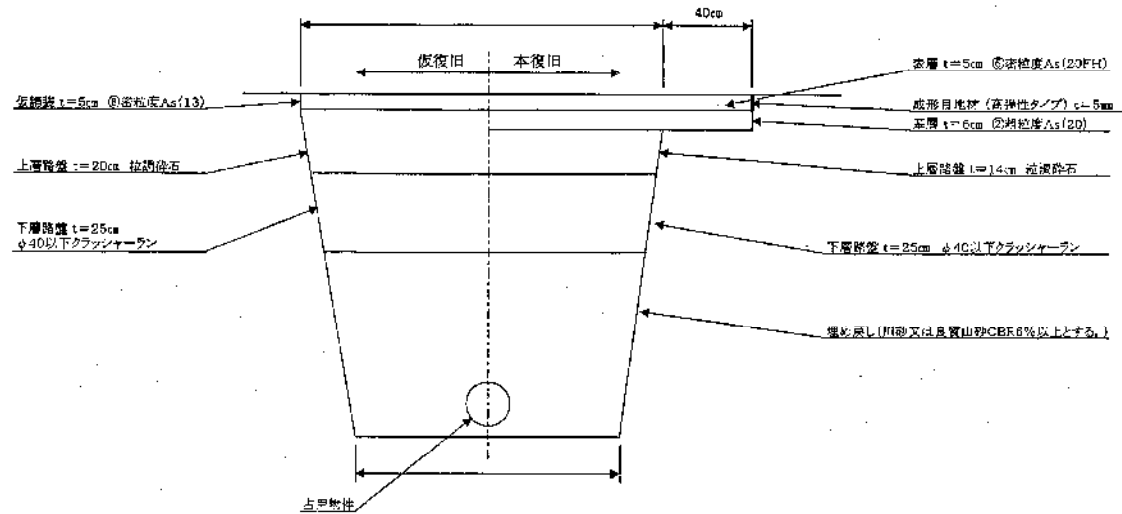
交通	区分	適用	改質	混合物の種類
L・A	一般部	橋面舗装		①密粒度アスコン(20F)
		消雪施設設置場所		②密粒度アスコン(20F)
	すべり止め	縦断勾配6%以上	改質Ⅰ型	③密粒度アスコン(20FH) ④密粒度アスコン(20FH)改質Ⅰ型(再生材入り)

B交通 非スベリ止復旧断面図



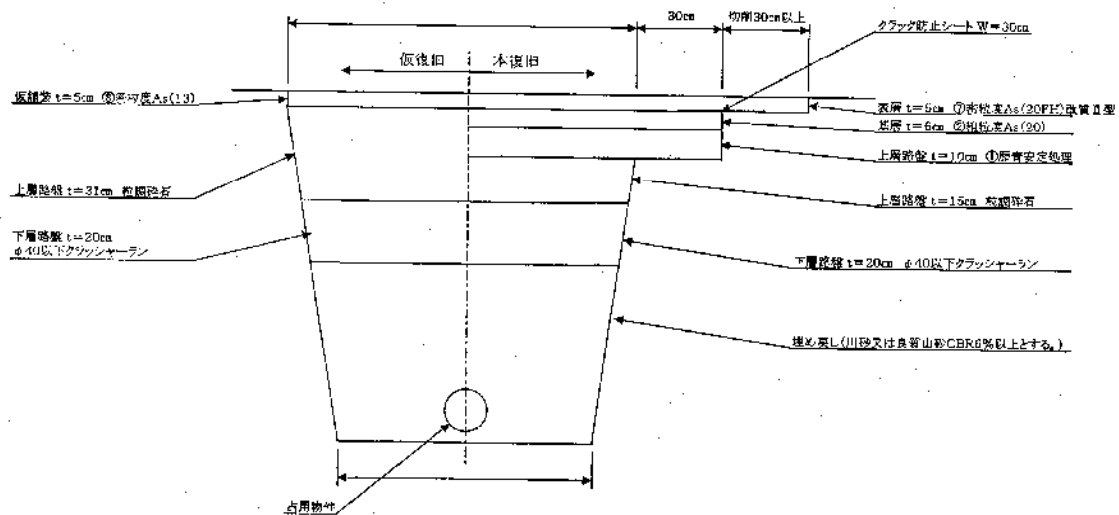
交通	区分	適用	改質	混合物の種類
B	一般部	橋面舗装		①密粒度アスコン(20FH)
		消雪施設設置場所		②密粒度アスコン(20FH)
	すべり止め	縦断勾配6%以上	改質Ⅰ型	③密粒度アスコン(20FH) 改質Ⅰ型(再生材入り)
	交差点側	交差点前後50m程度 (交差点内を含む)	改質Ⅱ型 (DS1600以上)	④密粒度アスコン(20FH)

B交通 非スベリ止復旧断面図（小規模引込み箇所）



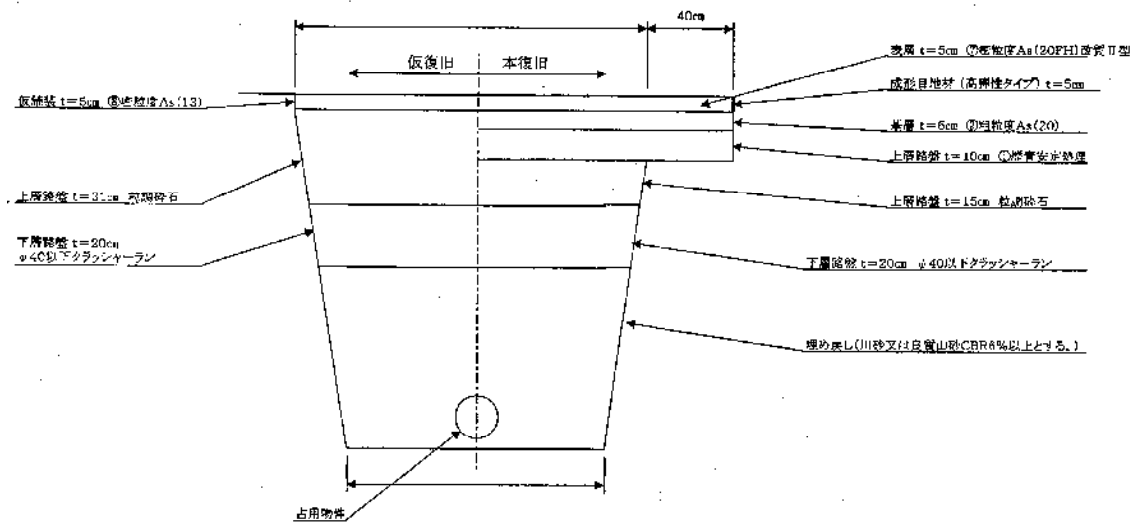
交通	区分	適用	取 扱	混合物の種類
B	一般部	補修箇所	改質Ⅰ型	⑦密粒度アスコン(20FH)
	すべり止め	短断面勾配6%以上		⑧密粒度アスコン(20FH) 改質Ⅰ型再生材入り
	交差点部	交差点前後50m程度 (交通量により含む)	改質Ⅱ型 (DS1500以上)	⑦密粒度アスコン(20FH)

C交通 非スベリ止復旧断面図



交通	区分	適用	取 扱	混合物の種類
C以上	一般部	原則として施工箇所全到 交通の多い、時に流動が著しい箇所は基層 も含む。	改質Ⅱ型 (DS1500以上)	⑦密粒度アスコン(20FH)

C交通 非スベリ止復旧断面図（小規模引込み箇所）



交通	区 分	注 意 用	改 質	混合物の種類
C以上	一般部	原則として新工箇所全線 交差点部等の、特に流動が著しい箇所は基層 も含む。	改質II型 (CS1500以上)	②密粒度アスコン(20FH)

430 50 50 330	密粒度As	密粒度As(20FH)	50 50 80 100 150 430
	粗粒度As(20)	粗粒度As(20)	
	再生クラッシャーラン φ 40	As安定処理	
		粒調碎石	
		再生クラッシャーラン φ 40	

	粗粒度As(20)	密粒度As(20FH)	50
		粗粒度As(20)	50
	As安定処理	As安定処理	80
	粒調碎石	粒調碎石	100
	再生クラッシャーラン φ40	再生クラッシャーラン φ40	150
430			430

	粗粒度As	密粒度As(13)	
	再生クラッシャーラン φ 40	再生クラッシャーラン φ 40	

(Ⅲ) しゅん工図作成要領

1 目 的

この要領は、新潟市水道局（以下「局」という。）に提出するしゅん工図面類の作成基準であり、工事完成後における維持管理の適正を図ることを目的とする。

2 適 用

- （１）この要領は、配水管の新設、変更または撤去工事で当該受注者が工事標準仕様書に基づき、当局に提出するしゅん工図面類の作成基準を定めるものである。
- （２）この要領に定めない項目は、「製図通則 JIS Z8310」、土木学会制定「土木製図基準」をはじめ製図関係の規格規定に準拠するものとする。

3 しゅん工図面の種類、規格、提出部数、品質

受注者は当該工事が完了後、速やかにしゅん工図面類（表－１）を作成し、提出するものとする。

表－１

種 類	規 格	提 出 部 数
工事しゅん工図（原図）	A2（A1）	１部
仕切弁・止水栓位置図（原図）	A4	１部
工事しゅん工図	A2（A1）	１部
仕切弁・止水栓位置図	A4	１部

（１）図面と規格

図面は、総て A 列規格とし、仕上げ寸法は仕切弁・止水栓位置図を除き A2 版を原則とするが、A2 版に作成することが適当でないと局が認めた場合は、A1 版とすることが出来る。

また、仕切弁・止水栓位置図については A4 版に限るものとする。

表－２（図面寸法）

呼 び 方	A1	A2	A4
寸 法 mm	594×841	420×594	210×297

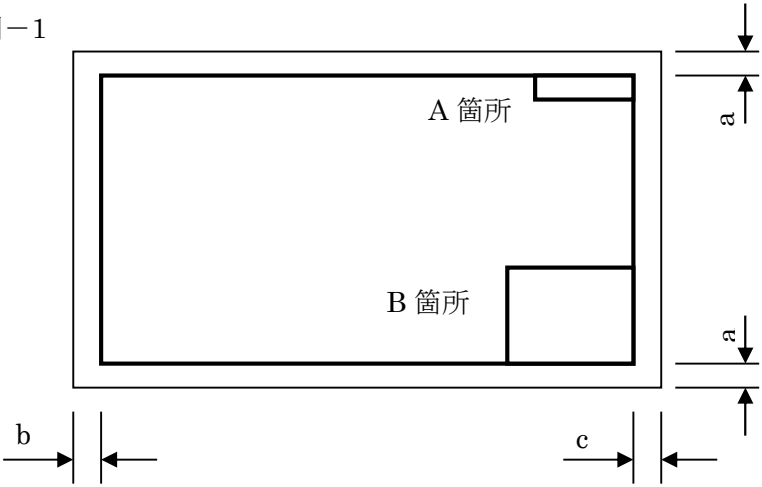
（２）図面の品質

しゅん工図面の用紙は、下地が白く図がきれいに仕上がる良質なものをうい図面用紙をいためないように保管ケース等に入れて提出すること。

4 輪郭と標題欄及び記載内容

図面の輪郭と標題欄の記載内容については、次項のとおり設けるものとする。

図－1



表－3（輪郭寸法）

単位（mm）

図面規格		A1	A2	A4
輪郭寸法	a	10	10	15
	b	32	32	32
	c	20	20	13

A箇所

（単位：mm）



B 箇所

(単位：mm)

100				c
100	新潟市水道局			
	工事番号	(元号)	年度	第 号
	工事名			
	工事場所	地内		
	図 名	図		
	縮 尺			
	図面番号	第 号	(全 葉)	
	しゅん工 年月日	(元号)	年	月 日
	施工者			
	管工事			
	総括監督員	主任監督員	設 計 者	担当監督員
a				

5 文字・線及び管路・施工区分の表示

文字・記号及び線は濃度を一定とし、均一なラインでシャープな記入をしなければならない。

(1) 文字

- ①文字（数字を含む）は明瞭に書き、横書きを原則とする。
- ②漢字は楷書で、仮名は平仮名を用いるのを原則とするが、品名・名称が外来語の場合は片仮名を用いる。
- ③数字はアラビア数字を用いる。

(2) 線

- ①作図に使用する線の種類は、実線・破線・一点鎖線の3種類を原則とする。
- ②線の太さは、必要に応じて適切な太さとするものとし、最小寸法は下記（表－4）以下になってはならない。

表－4（線・文字記号の最小基準）

図面規格	A1	A2	A4
線の太さ（mm）	0.3	0.2	0.1
文字・記号の太さ（mm）	0.3	0.2	0.1

（３）管路・施工区分の表示

平面図上に表示する管・弁栓類の施工区分（新設・既設・未撤去管）は、次の基準により行う。

- ①新設管路は必ず正確な位置に記入する。
- ②施工区分は管路に沿って上側に記載する。
- ③施工区分表示は施工区分が明確に判断できるように、次ぎのように表示する。

表－5

新設配水管	 （太い実線）
既設配水管	 （太い一点鎖線）
未撤去管	 （細い破線に×印）
新設給水管	 （細い実線）
既設給水管	 （細い破線）

6 寸 法

寸法は、形状及び位置の完成寸法を示すものとし、単位は m 及び mm を原則とする。

7 縮 尺

しゅん工図の縮尺は、原則として次の基準により記載するものとする。

①付近見取図	1 / 2,500		
②平面図	1 / 200	1 / 250	1 / 500
③詳細図	適宜		
④横断面、路面復旧、掘削断面図	適宜		
⑤給水立面図	Free		
⑥仕切弁、止水栓位置図	1 / 200		

8 しゅん工図面表示記号

(1) 配水管表示記号

しゅん工図面の平面図表示記号は下記(表-6)とする。

表-6(平面図表示記号)

種別	名 称	記 号	種別	名 称	記 号
継 手 の 形 式	印籠ソケット		異 形 管	三受十字管	
	メカニカル(A・K 形)			二受T字管	
	メカニカル(KF 形)			三受T字管	
	メカニカル(SⅡ 形)			受挿片落管	
	メカニカル(S 形)			挿受片落管	
	メカニカル(SⅡ 形) (ライナ使用)			曲管	
	メカニカル(T 形)			両受曲管	
	石綿セメント管			フランジ付T字管	
	石綿鑄鉄(ギボルト)			短管1号	
	CAジョイント			短管2号	
	AVジョイント			フランジ短管	
	ドレッサージョイント			栓(メカニカル)	
	メカニカル(NS 形)			継ぎ輪	
	メカニカル(NS 形) (ライナ使用)			継ぎ輪(長尺継ぎ輪)	
	メカニカル(GX 形)			P-Link	
	メカニカル(GX 形) (ライナ使用)			G-Link	
継 手 の 形 式	フランジ(RF×RF)			特殊継ぎ輪	
	フランジ(RF×GF)				

※ 継手の記号は形式記号で表示する

(ミリ管) (インチ管)

表-6(平面図表示記号)続き

種別	名 称	記 号	種別	名 称	記 号
異形管	伸縮可撓管(ベローズ形)		仕切弁	仕切弁	
	伸縮可撓管(ボール形)			仕切弁(不断水式)	
	割T字管			仕切弁(不断水式・バタフライ弁)	
				逆止弁	
押輪	漏水防止押輪		空気弁・消火栓	空気弁	
	特殊押輪(メカニカル)			消火栓	
	T形離脱防止金具			空気弁付消火栓	
				排水栓	
				空気弁付排水栓	

(φ75 水道配水用ポリエチレン管関係)

名 称	記 号	名 称	記 号
HPPE 直管 φ75		メカニカル三方チーズ	
EF ソケット φ75		90° メカニカルベンド φ75 (HPPE)	
EF チーズ φ75×φ75		45° メカニカルベンド φ75 (HPPE)	
フランジ付 EF チーズ φ75×φ75		22° 1/2 メカニカルベンド φ75 (HPPE)	
EF90° ベンド φ75		11° 1/4 メカニカルベンド φ75 (HPPE)	
EF45° ベンド φ75		メカニカルソケット φ75 (HPPE×HPPE)	
EF22° 1/2 ベンド φ75		メカニカルソケット φ75 (HPPE×VP)	
EF11° 1/4 ベンド φ75		メカニカルソケット φ75 (HPPE×DIP)	
HPPE. キャップ φ75		メカニカルフランジ短管 (RF) φ75	
HPPE. フランジアダプタ(RF) φ75		メカニカルフランジ短管 (GF) φ75	
HPPE. レジューサー φ75×φ50		メカニカルキャップ φ75 (HPPE)	
HPPE. フランジ付T字管 φ75×φ75		サドル付分水栓 (HPPE・メカ) φ75×φ50~20	
HPPE. K・T・NS 形ダクタイル鋳鉄管 異種管継手 φ75		サドル付分水栓 (HPPE・EF) φ75×φ50~20	
HPPE. 挿し口付ソフトシール弁 φ75			

(φ 50 水道配水用ポリエチレン管関係)

名 称	記 号	名 称	記 号
HPPE 直管 φ 50	—	HPPE ベンド 22° 1/2 φ 50	—
EF ソケット φ 50		HPPE キャップ φ 50	
HPPE チーズ φ 50×φ 50		サドル付分水栓 (HPPE・メカ) φ 50×φ 25~20	
HPPE ベンド 90° φ 50		サドル付分水栓 (HPPE・EF) φ 50×φ 25~20	
HPPE ベンド 45° φ 50			

(水道配水用ポリエチレン管、新潟市仕様金属継手材料関係)

名 称	記 号	延 長(mm)
HPPE 用金属ソケットφ 50		11
HPPE 用伸縮金属ソケットφ 50		100
PP-HPPE 用金属ソケットφ 50		8
HPPE 用おねじ付回転金属ソケットφ 50		60
HPPE 用おねじ付回転金属ソケットφ 50×φ 40		48
HPPE 用めねじ付金属ソケットφ 50		29
HPPE 用めねじ付分水栓回転金属ソケットφ 50		44
HPPE 用金属エルボφ 50		116
PD 用おねじ付ソケットφ 50 (既存品)		25
VB-HPPE 用金属ソケットφ 50		17
PP-HPPE 用伸縮金属ソケットφ 50		97
VB-HPPE 用伸縮金属ソケットφ 50		100
VB-HPPE 用伸縮金属チーズφ 50		216
PP-HPPE 用金属チーズφ 50		120
HPPE 用伸縮金属チーズφ 50		234
HPPE 用金属パイプエンドφ 50		0

(2) 給水管表示記号

しゅん工図の平面図(管路図)表示記号及び立面図表示記号は下記(表-7)とする。

表-7 (給水管路図表示記号及び立面図表記記号)

名 称	記 号	
	平面図(管路図)	立面図(給水立面図)
サドル分水栓(メカ)		
サドル分水栓(EF)		
止水栓		
配止栓		
ボール止水栓(φ50)		
コック		
VG継手		
メータ		
逆止弁内蔵ボール止水栓		
フレキシブル継手		
VPエルボ		
VPソケット		
VPチーズ		
GPエルボ		
GPソケット		

表－7（給水管路図表示記号及び立面図表記記号） 続き

名 称	記 号	
	平面図(管路図)	立面図(給水立面図)
GPチーズ		
GPニップル		
PP継手エルボ		
PP継手ソケット		
PP継手チーズ		
特殊鋼管継手伸縮チーズ VB×PP		
特殊鋼管継手ソケット VB×PP		
伸縮ソケット VB×PP		
PP継手おねじ付ソケット(回転式)		
PP継手めねじ付ソケット		
PP継手パイプエンド		
PP継手分・止水栓用ソケット		
PP継手分・止水栓用ソケット(回転式)		
特殊鋼管継手オス		
PP継手用フレキシブル継手(回転式)		
異形		
基準消火栓(空気弁付消火栓含む)		
基準空気弁		
基準仕切弁		
基準コック(ボール止水栓含む)		
基準排水栓(空気弁付排水栓含む)		

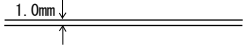
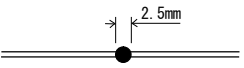
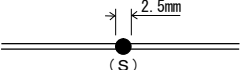
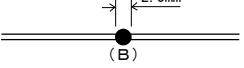
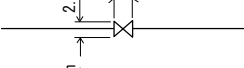
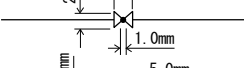
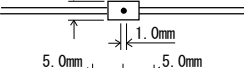
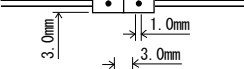
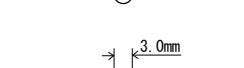
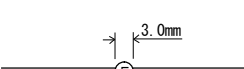
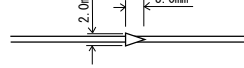
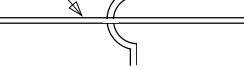
※ 上記記号は、給水管路の詳細を表すときの表示記号である

※ 標記にない記号に関しては、各協会発行の資料に準ずる

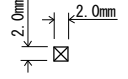
(3) 仕切弁・止水栓位置図表示記号

しゅん工図面の仕切弁・止水栓位置図表示記号は下記(表－8)とする。

表－8 (仕切弁・止水栓位置図表記記号)

種別	名 称	記 号	備 考
管 口 径	50mm 以下		一点鎖線
	75mm 以上		線の太さは 1.0mm
弁 栓 類	仕切弁		
	ソフトシール弁		
	バタフライ弁		
	コック		
	ボール止水栓 (φ50)		
	消火栓		
	区画消火栓		
	空気弁		
	増圧ポンプ		
	排水栓		
そ の 他	片落管		
	栓止め		
	管の交差		

表－8（仕切弁・止水栓位置図表示記号） 続き

種別	名 称	記 号	備 考
工 作 物 記 号	電 柱		
	下水マンホール		
	ガスマンホール		
	電話マンホール		
	電気マンホール		
	官民境界杭		

9 管種等表示記号

管種表示記号は表―8 を用いて記入する。

表―8

名 称	表示記号
水道用鋳鉄管	C I P
水道用ダクタイル鋳鉄管 (A 形)	A. D I P
水道用ダクタイル鋳鉄管 (K 形)	K. D I P
水道用ダクタイル鋳鉄管 (T 形)	T. D I P
水道用ダクタイル鋳鉄管 (KF 形)	KF. D I P
水道用ダクタイル鋳鉄管 (SⅡ形)	SⅡ. D I P
水道用ダクタイル鋳鉄管 (S 形)	S. D I P
水道用ダクタイル鋳鉄管 (NS 形)	NS. D I P
水道用ダクタイル鋳鉄管 (GX 形)	GX. D I P
水道用ダクタイル鋳鉄管 (PN 形)	PN. D I P
水道用石綿セメント管	A C P
配管用ステンレス鋼管	S U S
水道用塗覆装鋼管	S T W
水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	S G P－V B
水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管	S G P－P D
水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管	S G P－P B
水道用亜鉛めっき鋼管	S G P W
水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管	H I V P
水道用硬質ポリ塩化ビニル管	V P
水道用鉛管	L P
水道用ポリエチレン管	P P
水道用ゴム輪形耐衝撃性硬質塩化ビニル管	R R. H I V P
水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管	R R. V P
水道配水用ポリエチレン管	H P P E

作図上の留意事項

しゅん工図は、次表に掲げる事項を留意し作成する。

表－9（表示単位・縮尺・方位・必要事項）

種別	表示 単位	縮尺	方位	必要事項
附近見取図		1:2,500	方位記号を用い、上方は北向きを基本とする。	①附近見取図は、施工管路を示すものであり、町名・目標となる建物などの名称を記入する。 ②施工管路の位置を太い線で記入、若しくは円で囲こみ工事箇所を記入するなど施工箇所を明示すること。
平面図	m	1:500 (1:200、 1:250 小規模工事に適用)	方位記号を用い、上方は北向きを基本とする。	①施工管路の延長は平面延長と管路延長の2種類を表示する ②平面延長と管路延長の表示方法は、総延長は少数点第2位以下を四捨五入し少数点第1位で表示する。 ③地形のほか、鉄道・河川（流水方向等）・用水・排水・鉄道・家郭などの名称や必要事項（メーター口径・布設番号7桁など）を記入すること。 ④施工管路及び既設管路の表示方法は5～9を用いる。 ⑤異形管・仕切弁・消火栓・切管などの名称・形状・寸法などを記入する。但し詳細図がある箇所においては、詳細図にこれらを記入する。 ⑥仕切弁・消火栓などはメーカー名を記入する。また限定承認材料を使用の場合は、名称・型式なども記入する。 ⑦布設延長が長く一連作図が困難な場合は、適宜作図分割する。 ⑧施工管路などの表示は、工種・継手・管種・内面ライニング・口径・延長順で記入する。

詳細図	mm	適宜	方位記号を用い、上方は北向きを基本とする。	①原則として施工管路は肉付けで表示する。 ②異形管・仕切弁・消火栓・切管などの名称・形状・寸法などを記入する。 ③仕切弁・消火栓などはメーカー名を記入する。 ④必要に応じ、縦断面図・横断面図を作図する。 ⑤他の埋設物の名称・形状・寸法及び施工管路との離隔を記入する。 ⑥構造物・防護・伏越し・添架・推進・水管橋などの詳細部を作図する。 ⑦限定承認材料を使用の場合は、その材料の名称・形状・メーカー名・型式などを表記し承認図を記載する。
横断面図	mm	適宜		①原則として 50m 毎または、道路形態及び占用位置が変わった際に断面図を作図する。(但し、断面形状が同じ箇所については断面記号を連記し 1 つの断面図でもよい。) ②施工管路・既設管路・撤去管路・他の埋設物などの名称・形状・寸法などを記載すること。 ③道路形態などを詳しく記載すること。
路面復旧図	mm	適宜		路面構造を作図すること。
掘削断面図	mm	適宜		掘削断面を作図すること。
給水立面図	m	Free		①基準となる仕切弁・消火栓等から給水分岐までの、管路平面延長を記入する。 部分布設替えでは、基準水道施設から直線で部分布設替始点を結び、そこから布設平面延長で分岐位置を計測する。 現地状況に応じて、任意点からオフセットを複数求めることを可能とし、その考え方を竣工図に明記する事。 単位は m とし、小数点以下第 2 位を四捨五入し第 1 位まで表示すること。 ②給水分岐部からメーター下流まで作図すること。 ③耐摩板を設置した場合は、材料名称・厚さ・長さを明記すること。
仕切弁位置図 止水栓位置図	m	1:200	方位記号を用い、上方は北向きを基本とする。	①オフセットの起点は、撤去のおそれのない地先境界・マンホールなどとし、既設仕切弁等も同様に、3 点以上の引照点を定めること。電柱は原則として引照点としないこと。 ②引照点との距離寸法は m 単位で、小数点以下第 3 位を四捨五入し、第 2 位まで表示すること。 ③作図は平板測量とする。 ④表示記号は 8 (3) を用いる。

図面名、縮尺を記載する



※ 排水栓の場合は (H) → (F)
消火栓 → 排水栓 とする。

必100 G×受荷レコトヲ10位切弁(E.L.)
車鉄工(株))

配水管布設工 GX-K, D11P (LL) - F $\phi 100$
 平面延長 L = 6.6 m、管路延長 L = 6.6 m

$\frac{1}{2}$ 100 米 ラン

——●——：ノノノ使用箇所

口 径	键 形 形 状	直 径 数 值	切 割 管 径
φ100	已 关 闭	100	100
φ100	已 关 闭	100	100

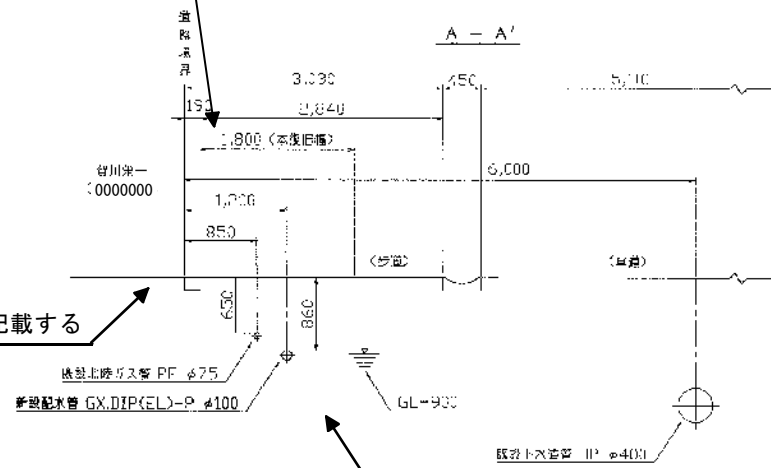
※ 約 100℃X、絶熱に、LX 特製パッド(LX 形製輪用)を使用。
メーカー名：「スズ工業(株)」
型 名：LMFX

図面名、縮尺を記載する

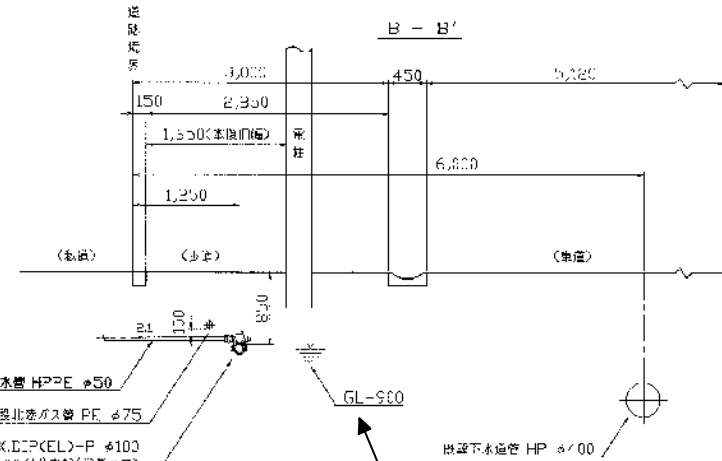
横断面図 S = 1/50

本復旧幅、オーバーレイ幅を記載する

道路形態を記載する



他の埋設物を記載する

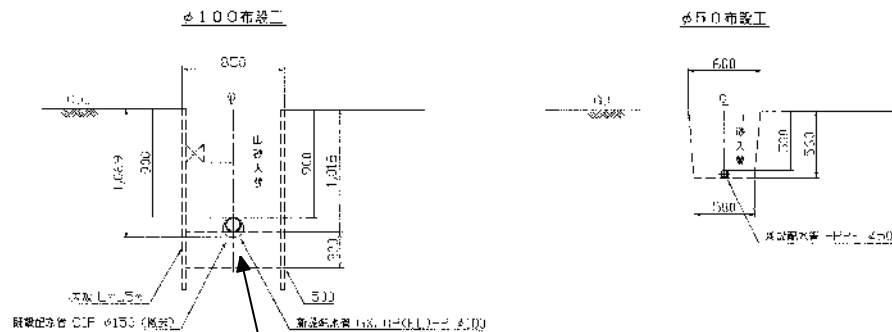


地下水位を記載する

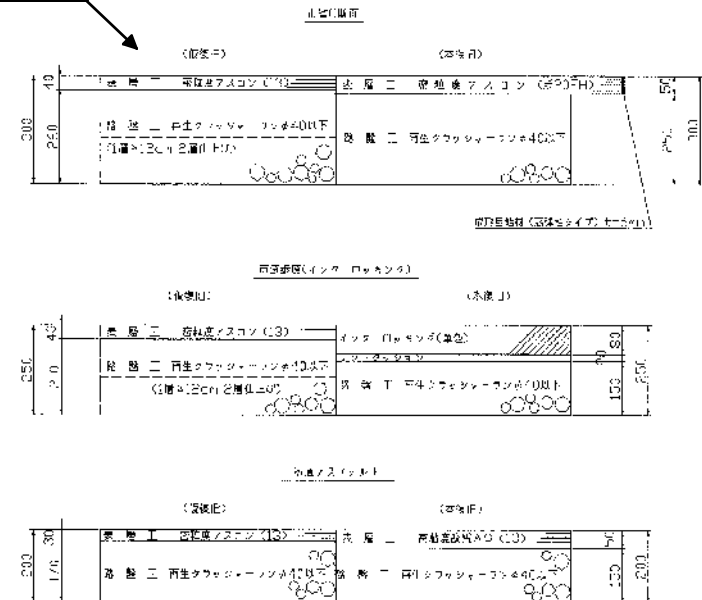
路面復旧図 S = 1/10

路面構造を記載する

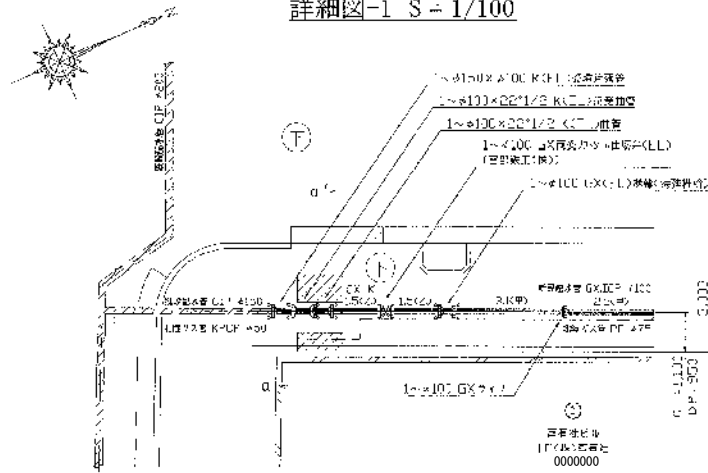
掘削断面図 S = 1/30



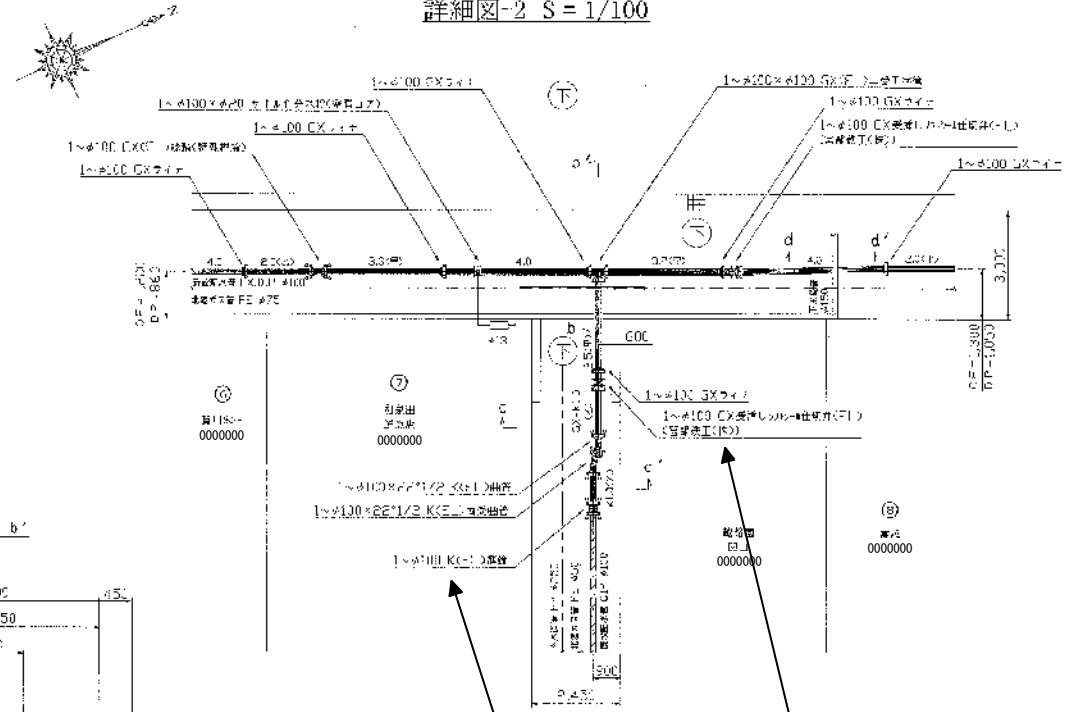
新設配水管を記載する



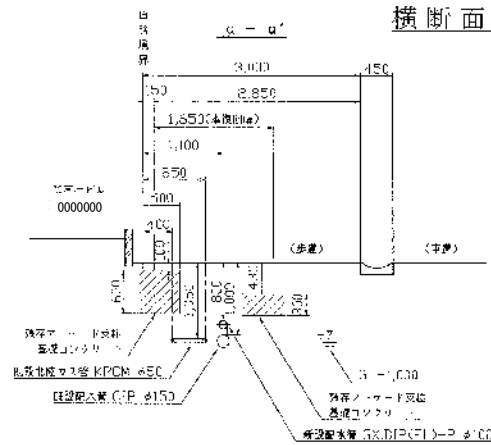
詳細図-1 S=1/100



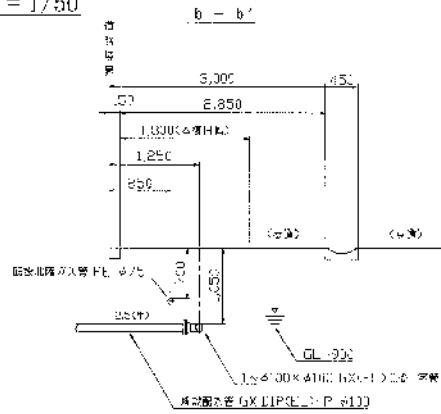
詳細図-2 S=1/100



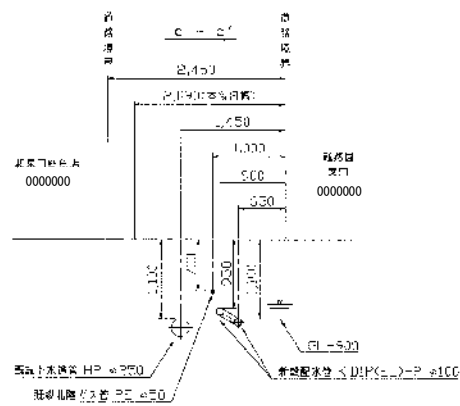
横断面図 S=1/50



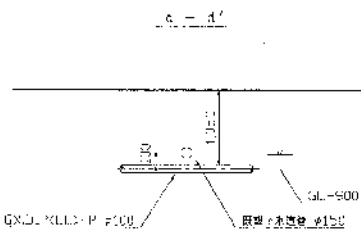
b-b'



縦断面図 S=1/50



a-a'



メーカー名を記載する

異形管の数量、口径、名称を記載する

図面名、縮尺を記載する

給水立面図① S = Free

・給水管の使用者または所有者
・布設番号 (GIS 7桁表示)

基準点位置からの距離
(単位はm、小数第1位まで表記)

①	中央 太郎
布設番号 NO	1000001

②	東 次郎
布設番号 NO	1000002

③	西 三郎
布設番号 NO	1000003

④	北 四郎
布設番号 NO	1000004

⑤	西 蒲 花子
布設番号 NO	1000005

⑥	秋 葉 五郎
布設番号 NO	1000006

⑦	江 南 六郎
布設番号 NO	1000007

⑧	南 七郎
布設番号 NO	1000008

⑨	水 道 八郎
布設番号 NO	1000009

給水接続番号を記載する

・管種
・口径
・管長 (単位はm、小数第1位まで表記)

材 料 表

①	φ100×φ20	耐摩板 (耐摩板)
φ50	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	
φ50	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	
φ50	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	

② ⑤ ⑥ ⑦	φ100×φ20	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)
φ50	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	
φ25	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	

③	φ100×φ20	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)
φ50	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	
φ50	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	
φ50	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	

④ ⑦	φ100×φ20	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)
φ50	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	
φ25	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	

⑧	φ100×φ20	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)
φ50	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	
φ25	1-PPE 耐摩板 (耐摩板)	

材料表

・該当給水接続番号を記載
・分水栓 (型式、口径)
・分水栓継手
・フレキシブル継手 (口径)
・止水栓 (型式、口径)
・プッシング (φ16で使用了場合記載)

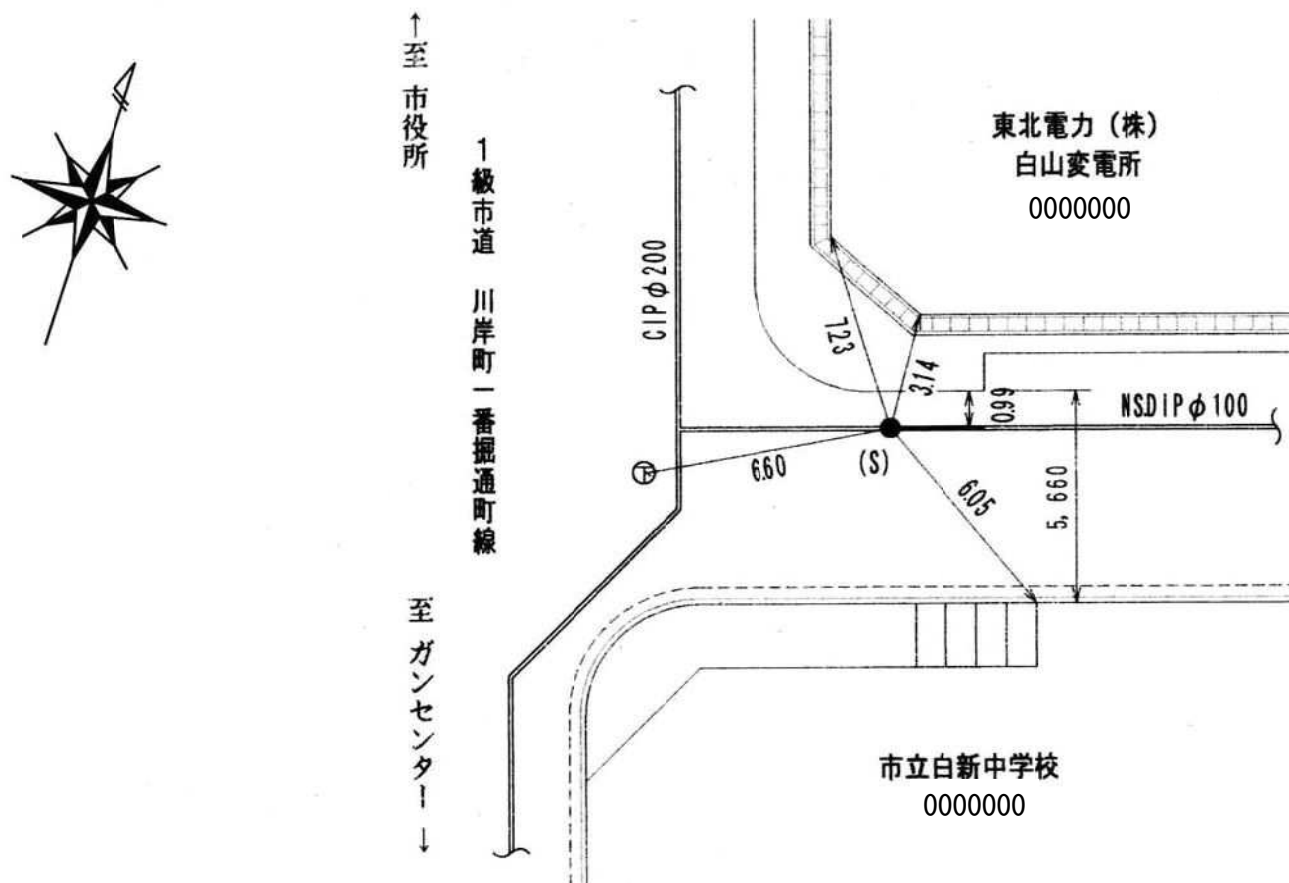
基準点位置からの距離
(単位はm、小数第1位まで表記)

⑩	キャップエ
新 潟 一 郎	
布設番号 NO	1000010
φ 20	分水キャップ

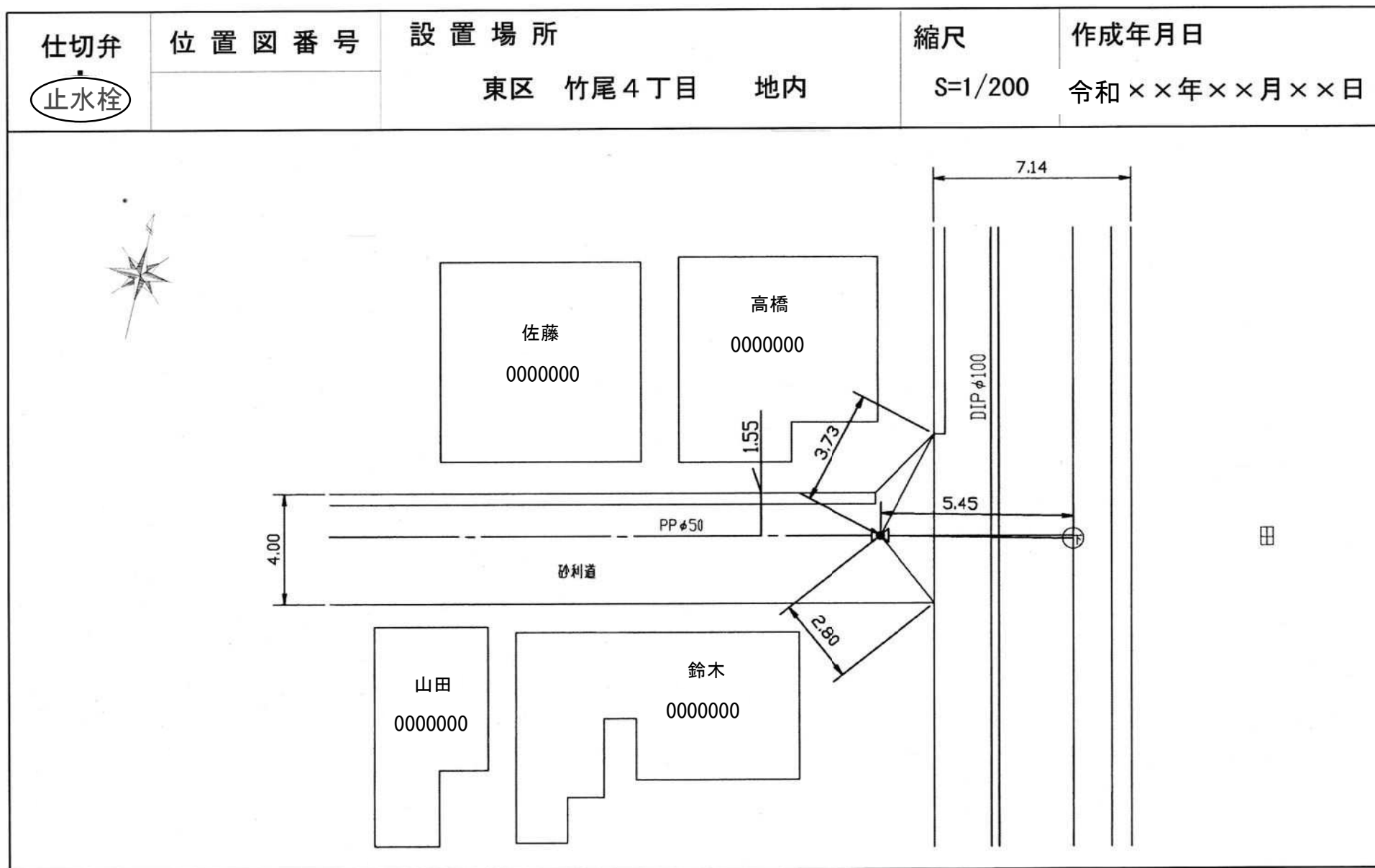
キャップエがある場合は表記する

既設接続管の管種・口径

仕切弁 止水栓	位置図番号	設置場所 中央区 川岸町2丁目 地内	縮尺 S=1/200	作成年月日 令和××年××月××日
------------	-------	--------------------------	---------------	----------------------



※仕切弁、止水栓が同じ場所にあっても位置図については別々に提出となる。



※仕切弁、止水栓が同じ場所にあっても位置図については別々に提出となる。

(Ⅳ) 工事写真撮影要領

1 目 的

この要領は、配水管布設工事などにおいて、施工記録と工事完成後の出来形確認の資料とするため、工事写真の撮影及び整理について基本的な事項を定めるものである。

2 撮影方法

工事写真は、表－1 に示す箇所のほか、局の監督員（以下「監督員」という）が指定する箇所または記録に残す必要がある箇所について撮影しておくこと。

また、この要領に定めのないものについては、日本水道協会「水道工事標準仕様書」によるものとする。

3 撮影内容および頻度

撮影内容及び頻度については、表－1 による。

4 撮影基準

工事写真は、撮影意図がわかる様に撮影しなければならない。

(1) 写真の撮影にあたっては、原則として次の項目を記載した小黒板を文字が判読できるよう被写体と共に写し込むものとする。

- | | |
|------------|-----------|
| ① 工 事 名 | ② 工 種 名 |
| ③ 測 点 (位置) | ④ 実 測 寸 法 |
| ⑤ 被写体の概要図 | ⑥ 施 工 者 名 |

(2) 位置の確認が必要な場合については、出来るだけ付近の家屋などを入れるものとする。

(3) 工事写真は施工管理の手段であり、各工事の施工段階および工事完成後不可視となる箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況などを撮影し整理するものである。

特に、不可視となる出来形部分および完成検査時に確認困難な箇所については写真により施工内容、出来形寸法が容易に確認できるよう留意して撮影しなければならない。

(4) 特殊な場合での撮影は、監督員の指示によるものとする。

5 留意事項

(1) 工事写真には、所定の施工寸法などが明確に判るように撮影すること。

(2) 撮影方向は、起点から終点に向かうことを原則とする。

(3) 撮影方向は、同一方向とすること。

(4) 夜間工事は、夜間の状況が判定できる写真とすること。

(5) 掘削内・構造物内では、照明に注意し鮮明な映像を得ること。

(6) 被写体が重複し判別しがたい場合は、中間に遮蔽物をいれること。

(7) 撮影は次の工程に移る直前に行うこと。

(8) 必要に応じて遠方と近接を撮影すること。

(9) 撮影時には、手ブレ、フラッシュなどによる反射に注意し、後で写真を見る側の立場に立った撮影をすること。

(10) 施工状況（不断水施工等）の写真については、動画等の活用ができるものとする。

6 緊急報告

事故など緊急に報告を必要とする場合は、本要領によらなくてもよい。ただし、現場状況が把握できるようにすること。

7 写真の編集等

写真の信憑性を考慮し、写真編集は認めない。ただし、「デジタル工事写真の小黑板情報電子化について」（国土交通省発出、平成 29 年 1 月 30 日付け、国技建管第 10 号）に基づく小黑板情報の電子的記入は、これに当たらない。

8 撮影の仕様等

- (1) 写真はカラーとする。
- (2) 有効画素数は小黑板の文字が判読できることを指標とする（100 万画素から 300 万画素程度）。プリンターはフルカラー300dpi 以上、インク・用紙は通常の使用条件のもとで 3 年間程度に顕著な劣化が生じないものとする。
- (3) 動画撮影時のフレームレートは、実速度で撮影する場合は、30fps 程度を基本とする。高倍速での視聴を目的とする場合は、監督員と協議の上、撮影時に必要な間隔でタイムプラス映像を撮影することができる。

9 写真等の整理

- (1) 工事の進行順に写真帳に整理し余白に整理番号・説明を付すこと。
 - (2) 写真帳には巻頭に案内図を付し、撮影箇所と写真が容易に対比できるようにしておくこと。
 - (3) 写真帳の大きさは、A4 版を基本とする。表紙及び背表紙には、施工年度・工事番号・工事名・工事場所・しゅん工年月・施工者名を表示すること。
 - (4) 電子媒体で提出する場合は、データを格納した電子媒体を写真帳の巻末に添付すること。
 - (5) 電子媒体は、CD-R を原則とし、提出時における有効画素 100 万画素以上とする。ただし、これ以外の電子媒体については、監督員の承諾を得るものとする。
- ※ (1)、(2) とともに説明に用いる用語・数字等は明瞭な文字で記入すること。

10 写真帳の提出

工事完成後、本要領に基づいて撮影した写真を写真帳に整理し、提出関係図書と一緒に写真帳及びフィルム又は電子媒体を速やかに監督員に提出すること。

表—1 撮影内容及び頻度

区分	工 種	撮 影 箇 所 及 び 内 容	撮 影 頻 度
一 般	着 工 前	・施工部全景が確認できるように撮影し、各々の写真に背景を入れ場所を明確にする。 ・関係構造物など（側溝、ブロック塀、付近家屋など）後で問題の起こる可能性のあるものは、関係者と立会いの上すべてを撮影する。	工事起点及び終点 状況に応じて中間点も撮影する。
	完 了 後	・着手前と同じ箇所、同じ方向で撮影する。 ・着手前の写真と対比できる形で貼付けする。	工事起点及び終点 状況に応じて中間点も撮影する。
	工 事 標 識 等	・工事表示板のすべての記載事項が確認できるように撮影する。	標準的箇所
	保 安 設 備	・工事標識と兼ねてもよいが、作業現場全景が入るよう撮影する。 ・交通整理員の配置状況が確認できるように撮影する。	標準的箇所 昼/夜工事状況が判読できる事
	調 査 及 び 試 掘	・調査及び試掘の目的に沿って、埋設管の配列・離隔などの状況が確認できるように撮影する。	全箇所
	舗 装 切 断 工	・切断中心及び切断深度が確認できるように撮影する。	50m 毎
	舗 装 版 撤 去 工	・施工中のもので、積み込み方法と最終処分地が確認できるものを撮影する。	50m 毎 各処分地毎
土 工	掘 削 工	・掘削状況（機械・人力）掘削深さ、天巾、敷巾などが確認できるように撮影する。	50m 毎
	埋 戻 工	・埋戻中の状況（機械・人力、埋戻し材料など）が確認できるように撮影する。 ・埋戻し時の転圧状況及び各層毎の厚さが確認できるように撮影する。	50m 毎
	残 土 処 分 工	・施工中のもので、積み込み方法と最終処分地が確認できるものを撮影する。	50m 毎 各処分地毎

区分	工 種	撮 影 箇 所 及 び 内 容	撮 影 頻 度
配 管	布 設 工	・土被り、離れを同時に幅広テープまたはスタッフなどにより確認できるように撮影する。	50m 毎を原則とするが占用位置が変る毎
	布 設 工 (継 手 接 合)	・配水管継手部の接合状況が確認できるように撮影する。 ・施工後外観では確認できない挿口加工やライナ等設置状況、清掃状況などを撮影する。	全ての継手接合箇所(本設及び仮設竣工部)
	布 設 工 (連 絡 部)	・全ての連絡箇所について既設管との配管状況及び連絡完了後の状況が確認できるように撮影する。 ・施工中の写真は、重要な箇所を選んで作成する。 ・表示板には、配管状況の確認できる略図を記載する。	各箇所
	弁栓等の設置状況	・弁栓等の設置状況が確認できるように撮影する。	各箇所
	覆 設 置 工	・覆設置の状況や、栗石等の基礎厚などが確認できるように撮影する。	全箇所を原則とする
	給 水 管 接 続 工	・分岐部から既設管接続までの配管状況が確認できるように撮影する。	全箇所
	異 形 管 使 用 部 分	・異形管を「なぜ」、「どのように」使用したか理解できるように撮影する。 ・表示板には、配管状況の確認できる略図を記載し管路の方向が一致するように撮影する。	全箇所
	管 撤 去 工	・施工中の状況が確認できるように撮影する。 ・管閉塞状況が確認できるように撮影する。 ・石綿管等産廃として処分するものについては最終処分状況が確認できるものを撮影する。	50m 毎 各処分地毎
	管被覆工等 ・ポリエチレンスリーブ被覆工 ・管明示テープ ・管明示シート ・耐摩板	・異形管部を除いた一般配管部では、布設工や管の表示と兼ねて撮影してもよいが、表示板記載図と管路の向きが一致するように撮影する。 ・ポリエチレンスリーブの被覆状況を撮影する。 ・管明示テープ及び管明示シートの設置状況を撮影する。 ・耐摩板は配管状況および離隔や設置状況が確認できるように撮影する。	50m 毎 耐摩板設置箇所全て

区分	工 種	撮 影 箇 所 及 び 内 容	撮 影 頻 度
配 管	他埋設物との関係	・交差及び平行した場合、離隔など位置的状況が理解できるように撮影する。 ・他埋設物の防護状況が確認できるように撮影する。また、異形管使用部と兼ねてよい。	交差部は全て 全箇所
	水 圧 試 験 管 洗 浄 工	・水圧ゲージが確認できるように撮影する。 ・水圧試験箇所が確認できるように撮影する。 ・管洗浄作業状況が確認できるように撮影する。 ・ポリピック使用は挿入と排出状況を撮影する。	試験箇所すべて 全箇所
仮 設 工	土 留 工	・土留工（親杭、矢板等）の形状寸法、打ち込み長さ及び打ち込み（引き抜き）状況が確認できるように撮影する。	50m 毎
	水 替 工	・稼動状況が確認できるように撮影する。 ・ウェルポイントの場合は、ライザー打ち込み、ヘッダーパイプ設置など各工程のものが確認できるように撮影する。	50m 毎
路 面 復 旧 工	路 盤 工	・舗装種別毎に、砕石厚さ及び幅が確認できるように幅広テープ等により撮影する。	50m 毎
	本 ・ 仮 復 旧 工	・施工中に合材や砕石の厚さ及び幅を、幅広テープなどで確認できるように撮影する。 ・舗装種別、施工工程、使用材料および作業の内容が確認できるように撮影する。	50m 毎
そ の 他	鉄 筋 工	・組み立て状況（径、配筋ピッチ等の寸法）が幅広テープなどで確認できるように撮影する。 ・ガス圧接を行う場合はその状況を撮影する。 ・各種試験状況が確認できるものを撮影する。	全箇所
	コンクリート工	・型枠設置及び検査状況を撮影する。 ・コンクリート打設状況及び養生状況を撮影する。 ・出来形寸法（コンクリート部材厚等）が幅広テープなどで確認できるように撮影する。 ・各種試験状況が確認できるものを撮影する。	全箇所
	溶 接 工	・各作業状況、検査状況が確認できるように撮影する	全箇所
	塗 装 工	・下地処理、塗装状況及び検査状況が確認できるように撮影する	全箇所

(V) 水道配水用ポリエチレン管 (HPPE)

標準配管図

※ 本配管図は、標準的な配管を示したものである。

水道配水用ポリエチレン管 (HPPE) の標準配管 1

《φ 75 関係》

		被分岐管	分岐管	
既設配水管からの分岐	T字管からの分岐	DIP φ 100, 150	HPPE φ 75	図 - 1 - 1
	不断水分岐	DIP φ 100～300		図 - 1 - 2
	EF チーズ分岐	HPPE φ 75		図 - 1 - 3
		DIP φ 75		図 - 1 - 5
		HIVP・VP φ 75		図 - 1 - 7
		ACP φ 75		図 - 1 - 9
	メカニカル三方チーズ分岐	HPPE φ 75		図 - 1 - 4
		DIP φ 75		図 - 1 - 6
		HIVP・VP φ 75		図 - 1 - 8
		ACP φ 75		図 - 1 - 10

弁類への接続	ソフトシル仕切弁への接続		図 - 1 - 11
	消火栓への接続		図 - 1 - 12

異種管への接続	ダクタイル鋳鉄管への接続	HPPE φ 75	DIP φ 75	図 - 1 - 13
	塩ビ管への接続		HIVP・VP φ 75	図 - 1 - 14
			HIVP・VP φ 50	図 - 1 - 15
	石綿管セメント管への接続		ACP φ 75	図 - 1 - 16
	ポリエチレン管への接続		PP φ 50	図 - 1 - 17

給水分岐	EF サドル分岐	HPPE φ 75	PP φ 20, 25	図 - 1 - 18
	サドル分岐			図 - 1 - 19

※ 水道配水用ポリエチレン管(HPPE)の接合は、EF 接合を基本とするが地下水位・既設管の止水状況等により EF 接合が困難な場合はメカニカル接合とする。

水道配水用ポリエチレン管 (HPPE) の標準配管 2

《φ 50 関係》

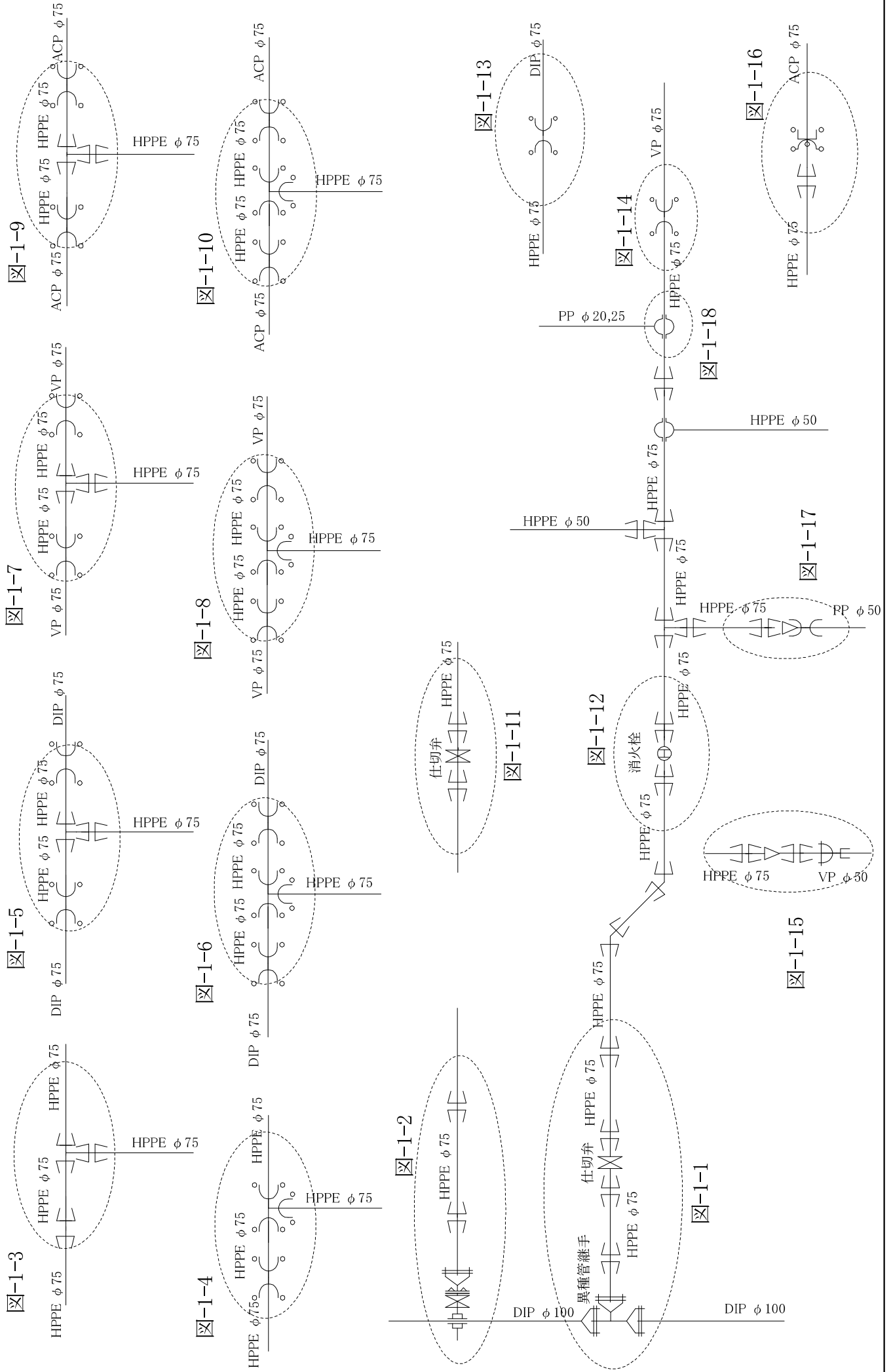
		被分岐管	分岐管	
既設配水管からの分岐	EF チェス分岐	HPPE φ 75	HPPE φ 50	図 - 2 - 1
		HPPE φ 50		図 - 2 - 2
	サドル分岐	HPPE φ 75	HPPE φ 50	図 - 2 - 4
	金属チェス分岐	VP φ 50		図 - 2 - 15
		PP φ 50		図 - 2 - 16
		HPPE φ 50		図 - 2 - 17

HPPE 管との接続	EF 接続	HPPE φ 75	HPPE φ 50	図 - 2 - 5
				図 - 2 - 7
	金属接続	HPPE φ 50	HPPE φ 50	図 - 2 - 8 図 - 2 - 9

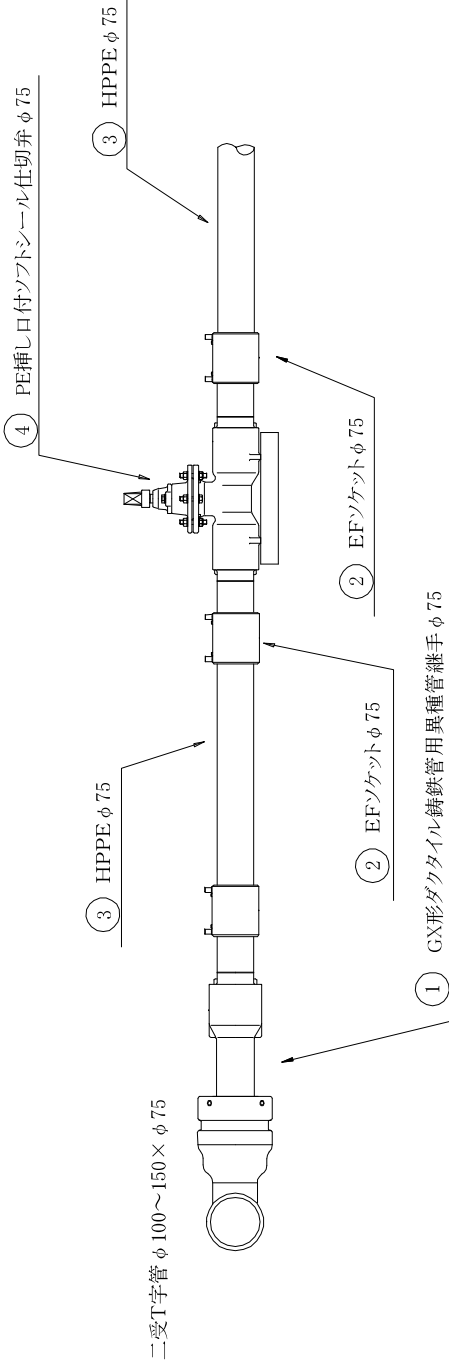
異種管への接続	VB との接続	HPPE φ 50	VB φ 50	図 - 2 - 10 図 - 2 - 11 図 - 2 - 13
	PD との接続		PD φ 50	図 - 2 - 14
	PP との接続		PP φ 50	図 - 2 - 12 図 - 2 - 12-1

給水分岐	サドル分岐	HPPE φ 75	φ 50	図 - 2 - 3
	メータ接続	φ 50	φ 40	図 - 2 - 3-1

φ75 水道配水用ポリエチレン管配管パターン図

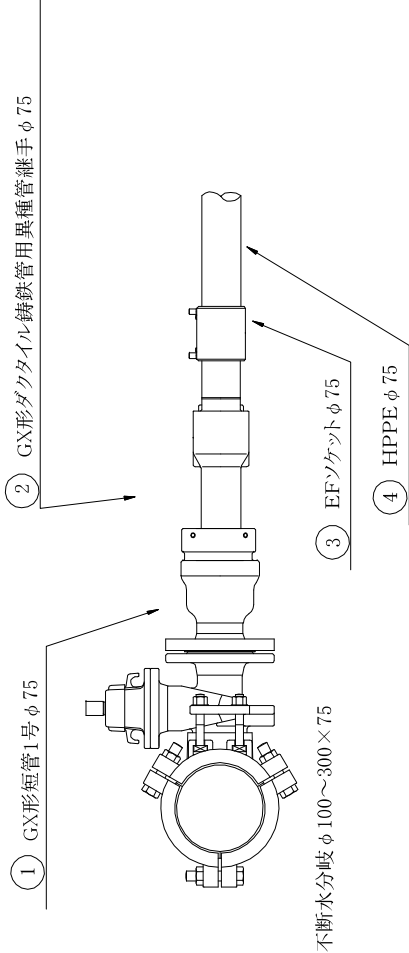


ダクタイル鋳鉄管(φ100、150)から
HPPEφ75への分岐(T字分岐)標準図



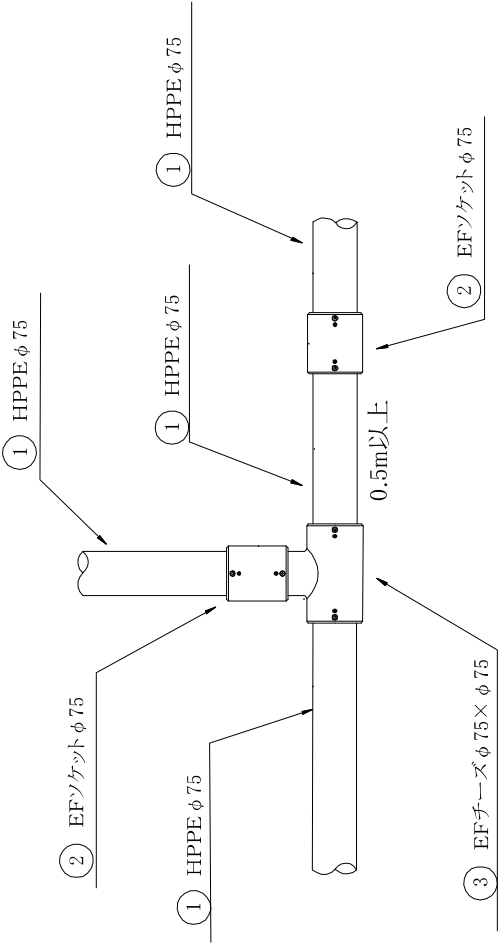
	品 名	呼び径	備 考
①	GX形ダクタイル鋳鉄管用異種管継手 φ75		PTC G 32
②	EFソケット φ75		JWWA K145
③	HPPE直管 (φ75)		JWWA K144
④	PE挿し口付ソフトシート仕切弁 φ75		PTC B 22

ダクタイル鋳鉄管(φ100～300)から
HPPEφ75への分岐(不断水分岐)標準図



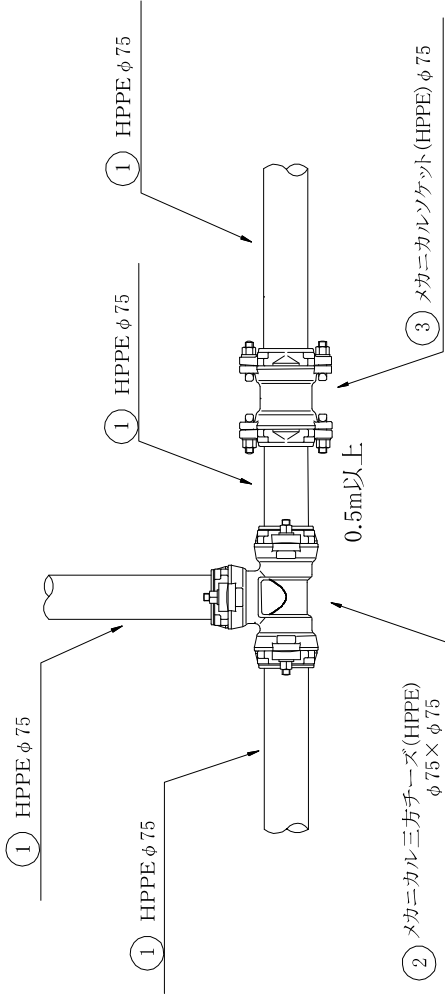
	品 名	呼び径	備 考
①	GX形短管1号 φ75		PTC G 32
②	GX形ダクタイル鋳鉄管用異種管継手 φ75		PTC G 32
③	EFソケット φ75		JWWA K145
④	HPPE直管 (φ75)		JWWA K144

HPPE φ 75からのEFチーz分岐標準図



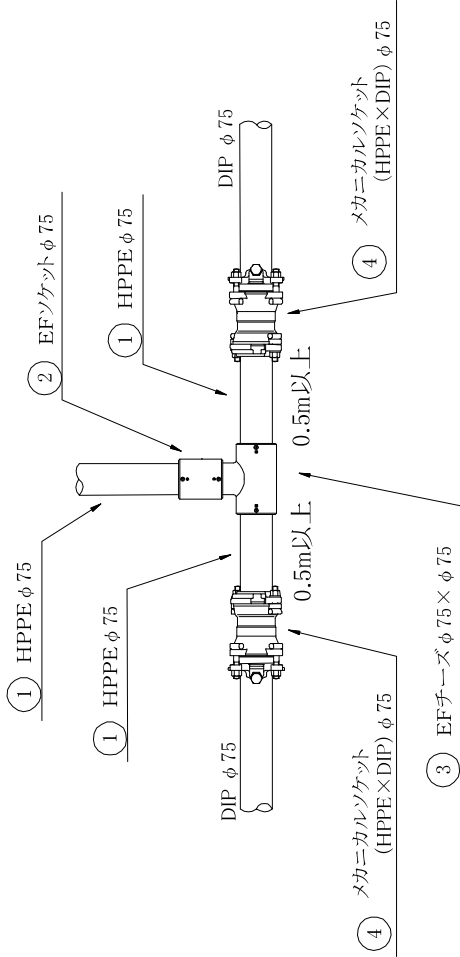
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K145
②	EFソケット φ 75		JWWA K144
③	EFチーz φ 75 × φ 75		PTC K 13

HPPE φ 75からの
メカニカル三方チーz分岐標準図



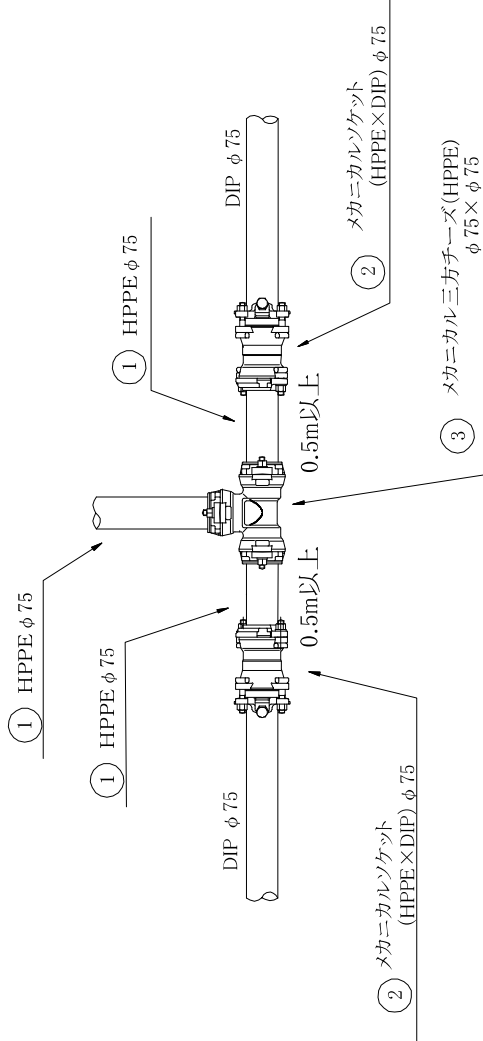
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	メカニカル三方チーz (HPPE) φ 75 × φ 75		PTC G 30
③	メカニカルソケット (HPPE) φ 75		PTC G 30

ダクタイル铸铁管 φ75からの
EFチーーズ分岐標準図



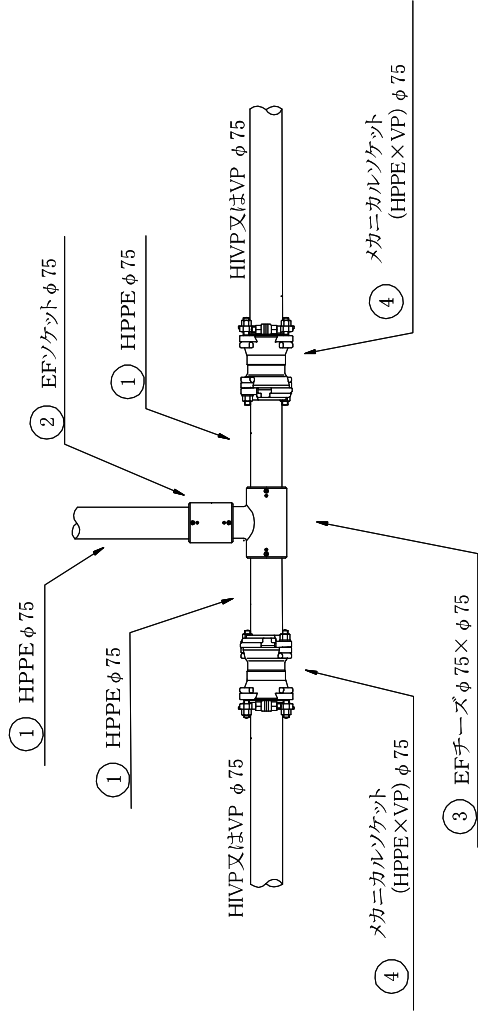
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	EFソケット φ 75		JWWA K145
③	EFチーーズ φ 75 × φ 75		PTC K 13
④	メカニカルソケット (HPPE×DIP) φ 75		PTC G 30

ダクタイル铸铁管 φ75からの
メカニカル三方チーーズ分岐標準図



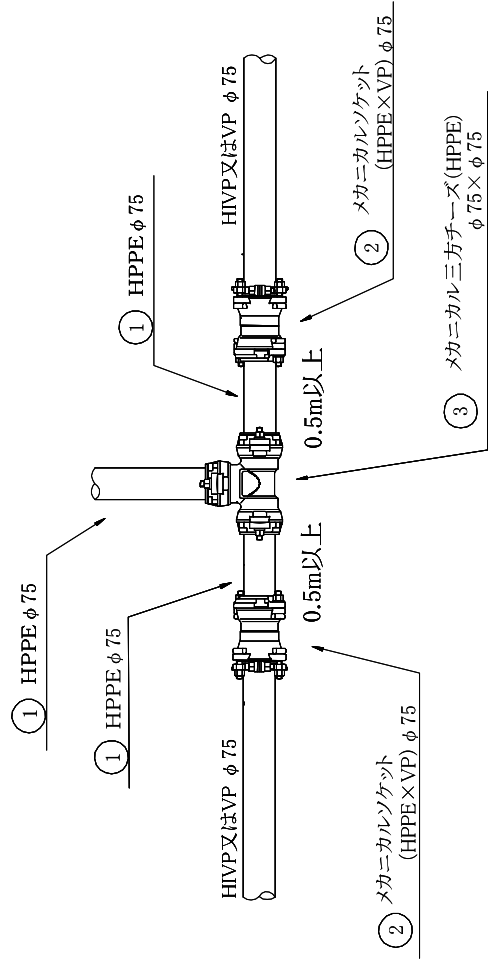
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	メカニカルソケット (HPPE×DIP) φ 75		PTC G 30
③	メカニカル三方チーーズ (HPPE) φ 75 × φ 75		PTC G 30

ビニル管 φ 75からのEFチーザ分岐標準図



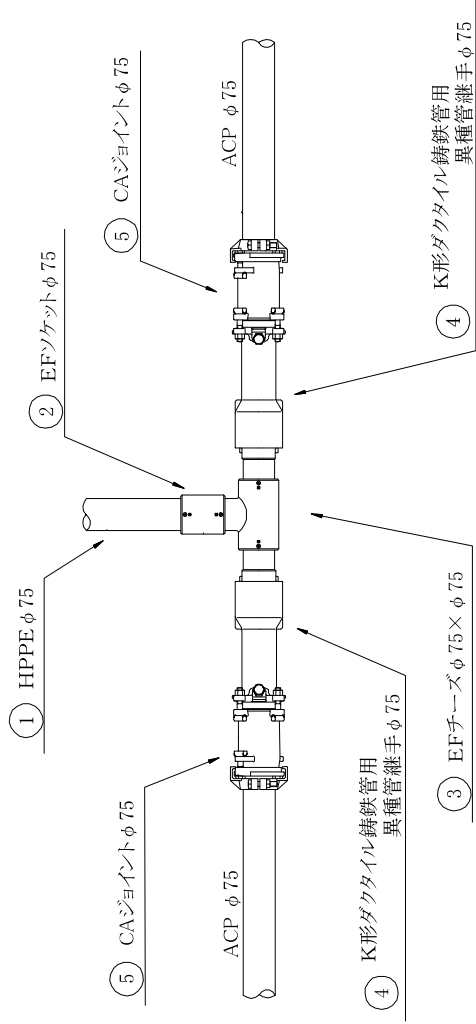
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	EFソケット φ 75		JWWA K145
③	EFチーザ φ 75 × φ 75		PTC K 13
④	メカニカルソケット (HPPE×VP) φ 75		PTC G 30

ビニル管 φ 75からのメカニカル三方チーザ分岐標準図



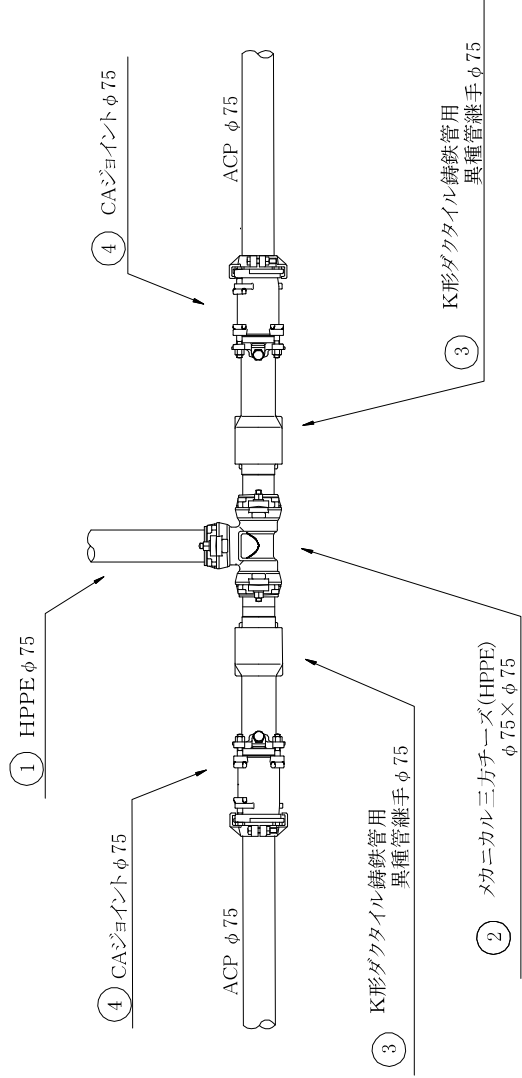
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	メカニカルソケット (HPPE×VP) φ 75		PTC G 30
③	メカニカル三方チーザ (HPPE) φ 75 × φ 75		PTC G 30

石綿管 φ 75からのEFチーz分岐標準図



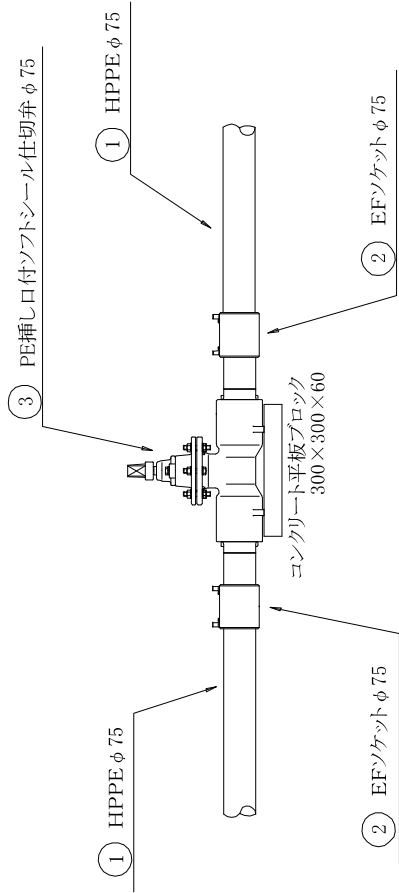
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	EFソケット φ 75		JWWA K145
③	EFチーz φ 75× φ 75		PTC K 13
④	K形ダクタイル鋳鉄管用異種管継手 φ 75		PTC G 32
⑤	CAジョイントφ 75		

石綿管 φ 75からのメカニカル三方チーz分岐標準図



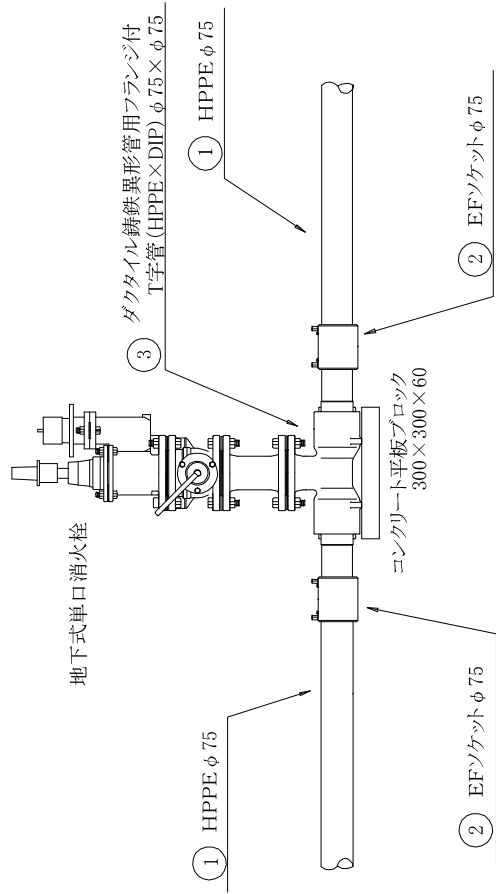
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	メカニカル三方チーz (HPPE) φ 75 × φ 75		PTC G 30
③	K形ダクタイル鋳鉄管用異種管継手 φ 75		PTC G 32
④	CAジョイントφ 75		

HPPE φ 75からPE挿し口付き
ソフトシール仕切弁への接続標準図



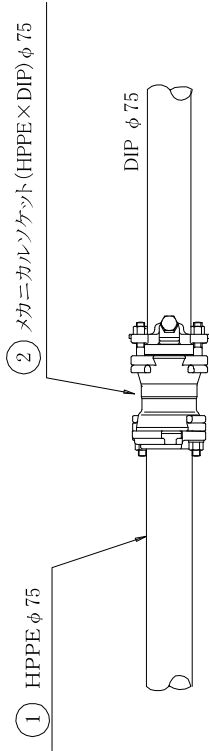
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	EFソケット φ 75		JWWA K145
③	PE挿し口付ソフトシール仕切弁 φ 75		PTC B 22

HPPE φ 75から消火栓への接続標準図



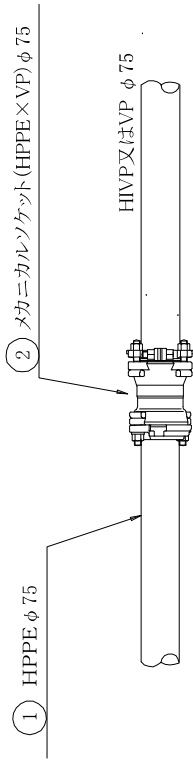
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	EFソケット φ 75		JWWA K145
③	デジタル鋳鉄異形管用フランジ付 T字管 (HPPE×DIP) φ 75×φ 75		PTC G 32

HPPE φ 75からDIP φ 75への接続標準図



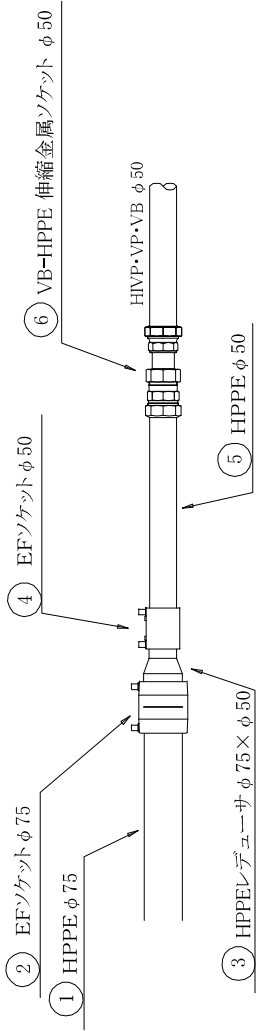
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	メカニカルソケット (HPPE×DIP) φ 75		PTC G 30

HPPE φ 75から塩ビ管 φ 75への接続標準図



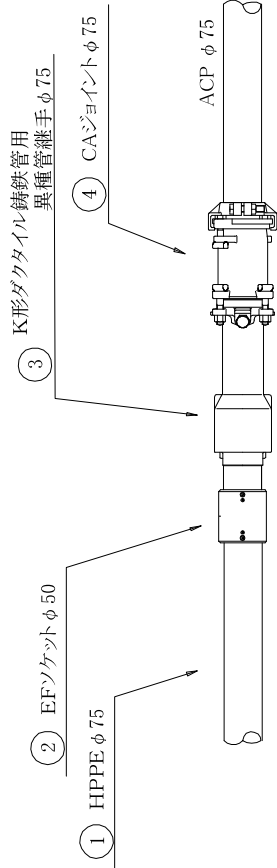
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	メカニカルソケット (HPPE×VP) φ 75		PTC G 30

HPPE φ 75から塩ビ管、鋼管 φ 50への接続標準図



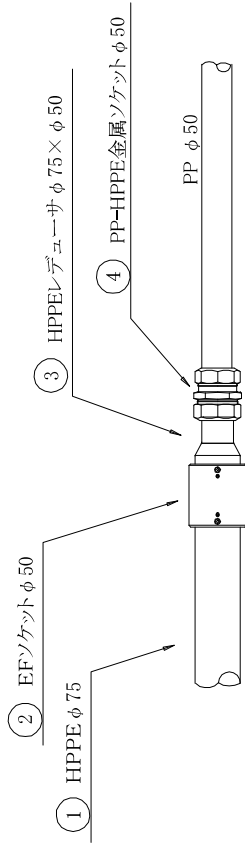
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	EFソケット φ 75		JWWA K145
③	HPPEレデューサ φ 75× φ 50		PTC K 13
④	EFソケット φ 50		JWWA K145
⑤	HPPE直管 (φ 50)		JWWA K144
⑥	VB-HPPE 伸縮金属ソケット φ 50		新潟市仕様

HPPE φ 75からACP φ 75への接続標準図



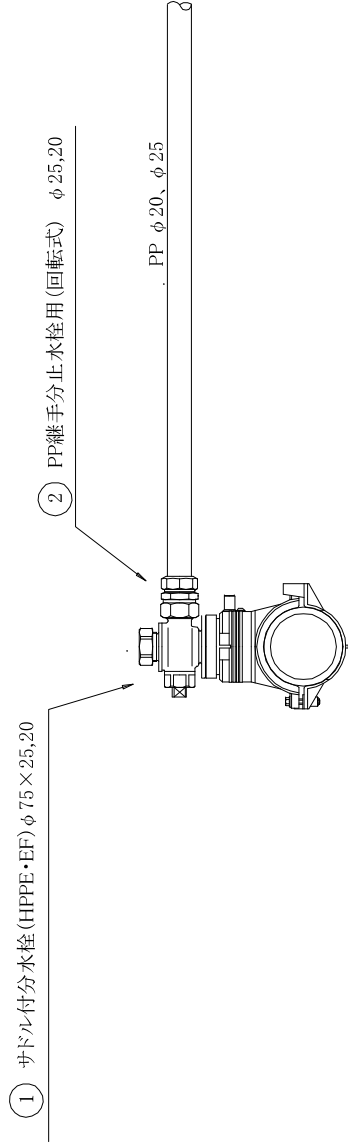
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	EFソケット φ 75		JWWA K145
③	K形ダクタイル鑄鉄管用異種管継手 φ 75		PTC G 32
④	CAジョイント φ 75		

HPPE φ 75からPP φ 50への接続標準図



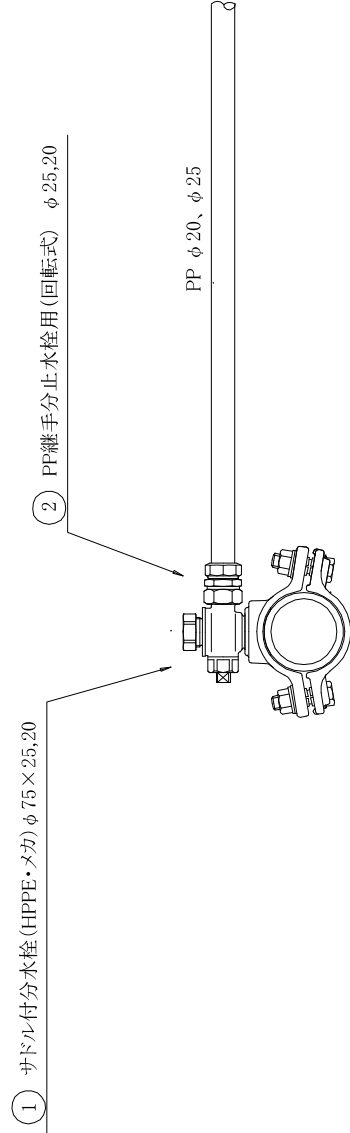
	品 名	呼び径	備 考
①	HPPE直管 (φ 75)		JWWA K144
②	EFソケット φ 75		JWWA K145
③	HPPEレデュース φ 75 × φ 50		PTC K 13
④	PP-HPPE金属ソケット φ 50		新潟市仕様

HPPE φ 75からPP φ 20,25へのEFサドル分岐標準図



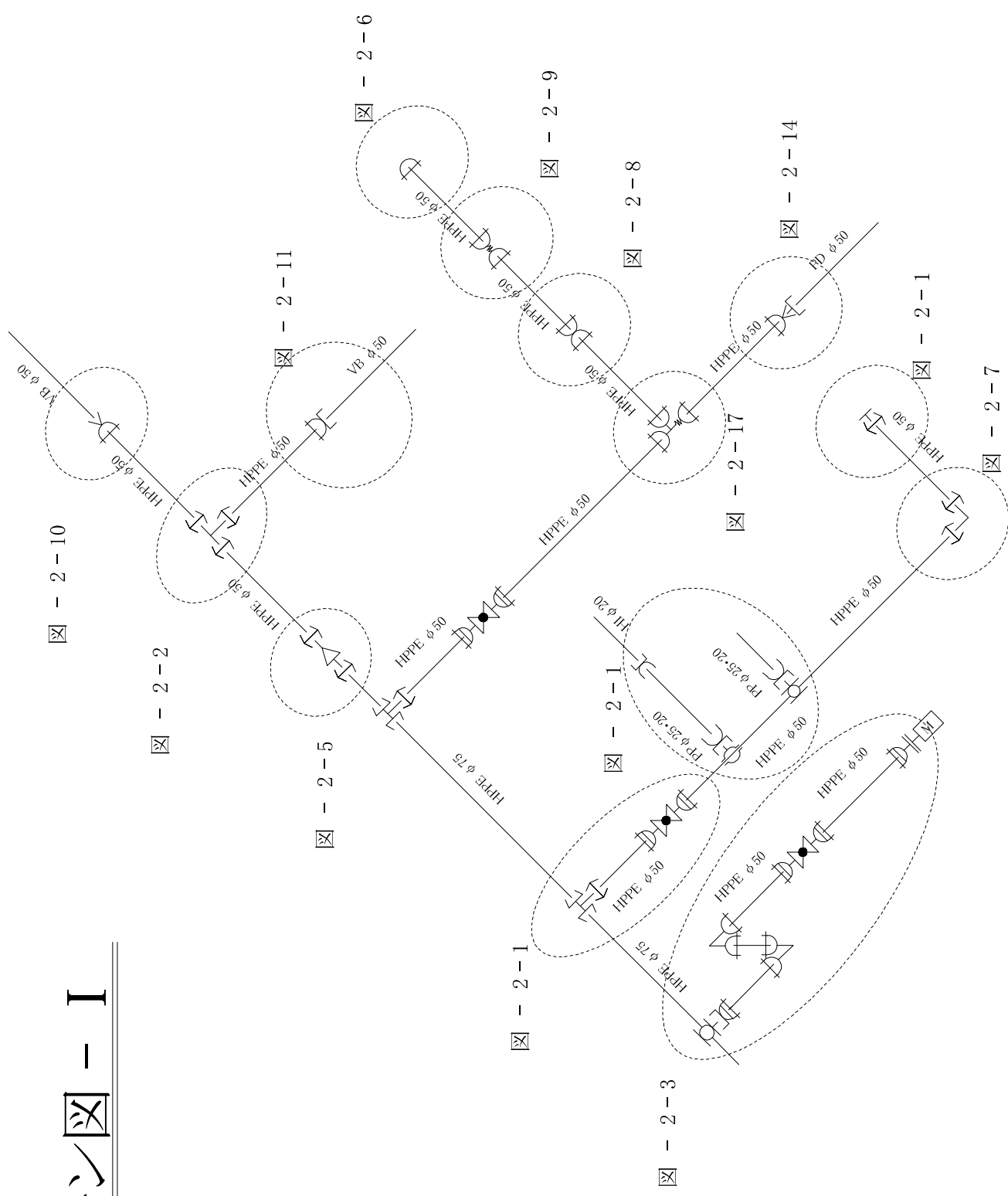
	品 名	呼び径	備 考
①	サドル付分水栓 (HPPE・EF)	φ 75×25,20	PTC K 13
②	PP継手分止水栓用 (回転式)	φ 25,20	

HPPE φ 75からPP φ 20,25へのサドル分岐標準図



	品 名	呼び径	備 考
①	サドル付分水栓 (HPPE・マカ)	φ 75×25,20	PTC B 20
②	PP継手分止水栓用 (回転式)	φ 25,20	

配管パターン図 - I



配管パターン図 - II

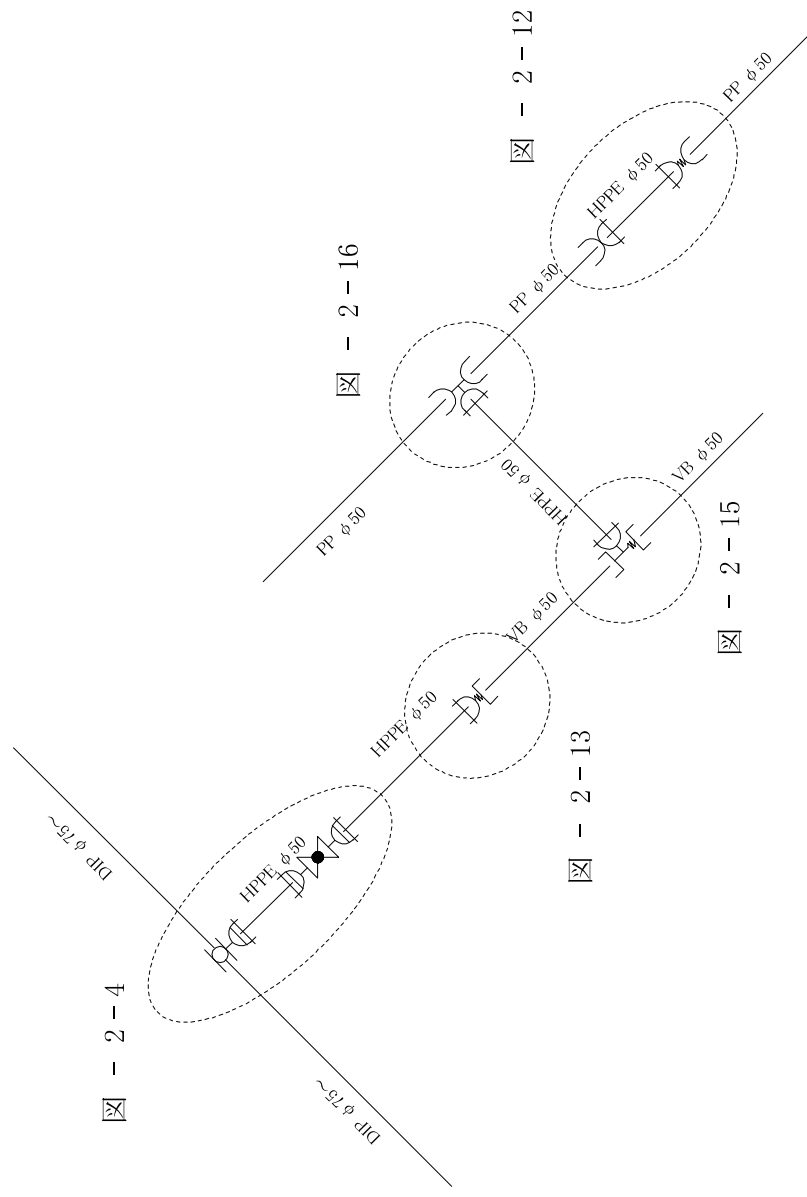
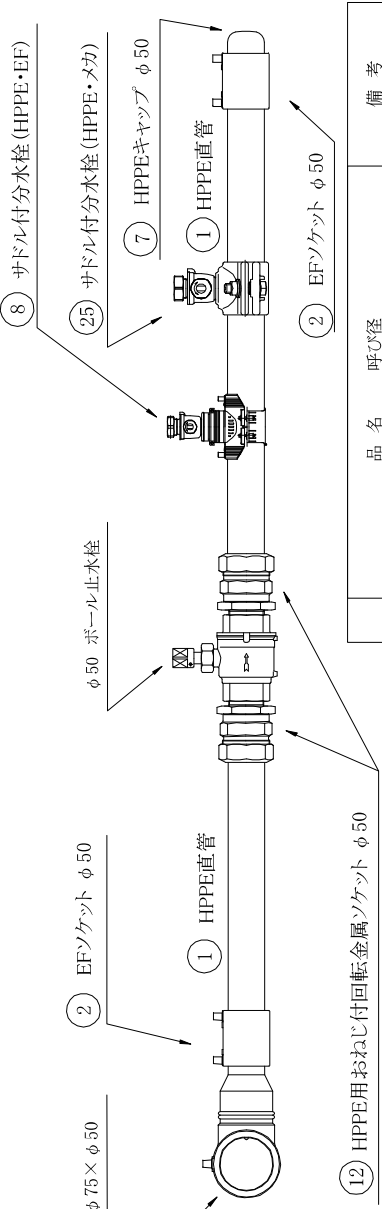
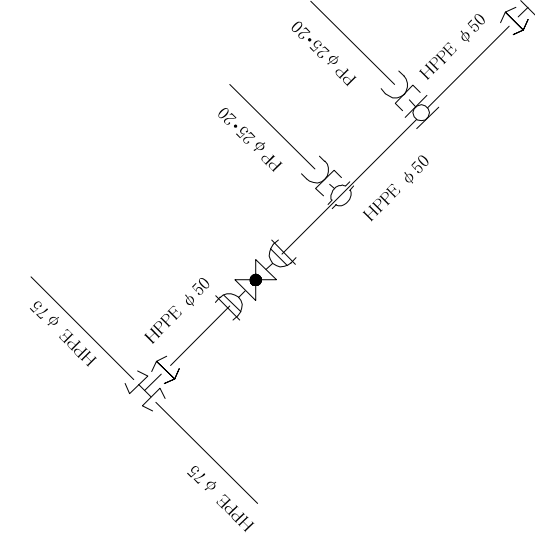


図 - 2 - 1

HPPE φ75×φ50
熱融着継手使用 給・配水管取出し標準配管図

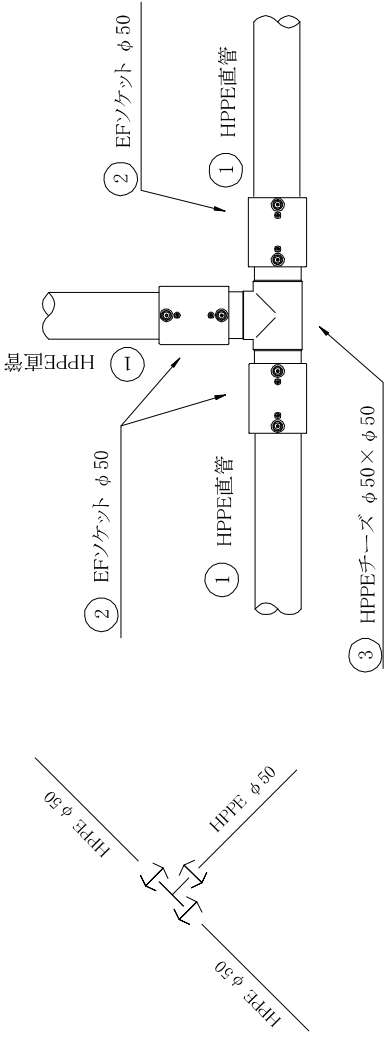


	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②	⌋	EFソケット φ50	JWWA K145
⑦	┴	HPPEキャップ φ50	PTC K13
⑧	⌋	サドル付分水栓 (HPPE・EF)	PTC K13
⑫	⌋	HPPE用おねじ付回転金属ソケット φ50	新潟市仕様
⑫	⌋	サドル付分水栓 (HPPE・マカ)	PTC B20

熱融着分岐図

HPPE φ50×φ50

図 - 2 - 2



	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②	⌋	EFソケット φ50	JWWA K145
③	┴	HPPEチーーズ φ50×φ50	PTC K13

⑮材料はサドル分水栓(HDPE・メカ)
φ75×φ50 使用時のみ使用

① HDPE直管

① HDPE直管

① HDPE直管

①2 HDPE用おねじ付回転金属ソケット φ50

①2 HDPE用おねじ付回転金属ソケット φ50

①6 HDPE用金属エルボ φ50

②5 サドル付分水栓 (HDPE・メカ)

φ50 ボール止水栓

φ50 メータフランジ

HDPE φ75

HDPE φ75

HDPE φ50

	品 名	呼び径	備 考
①	——	HPPE直管	JWWA KI44
⑬		HPPE用おねじ付回転金属ソケット φ50×φ40	新潟市仕様

① HPPE直管

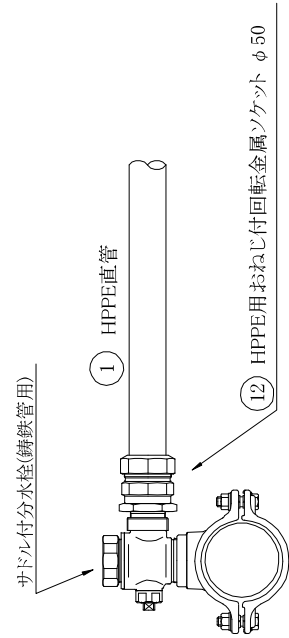
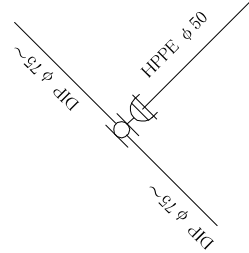
φ40
メータ用伸縮ユニオン

⑬ HPPE用おねじ付回転金属ソケット
φ50 × φ40

HPPE φ50

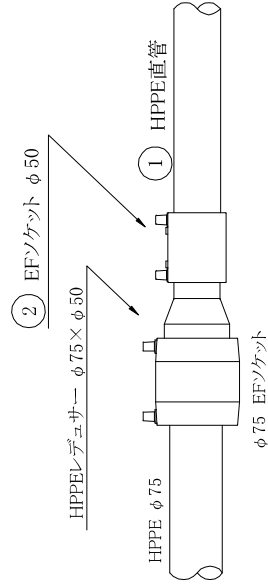
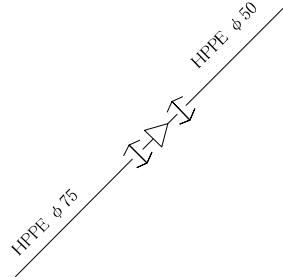
M

铸铁管 φ 75以上× φ 50 铸铁サドル分岐図



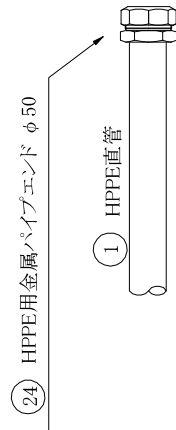
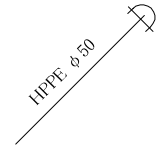
	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑫	⌀	HPPE用おねじ付回転金属ソケット φ 50	新潟市仕様

HPPE φ 75× φ 50 熱融着縮径図



	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②	⌀	EFソケット φ 50	JWWA K145

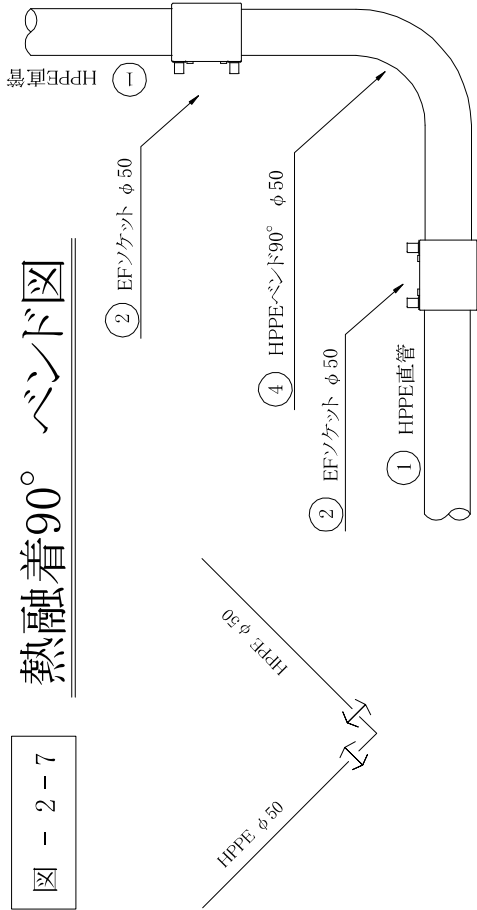
修繕時・他 金属継手パイプエンド図



	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②4	⌀	HPPE用金属パイプエンド φ 50	新潟市仕様

図 - 2 - 7

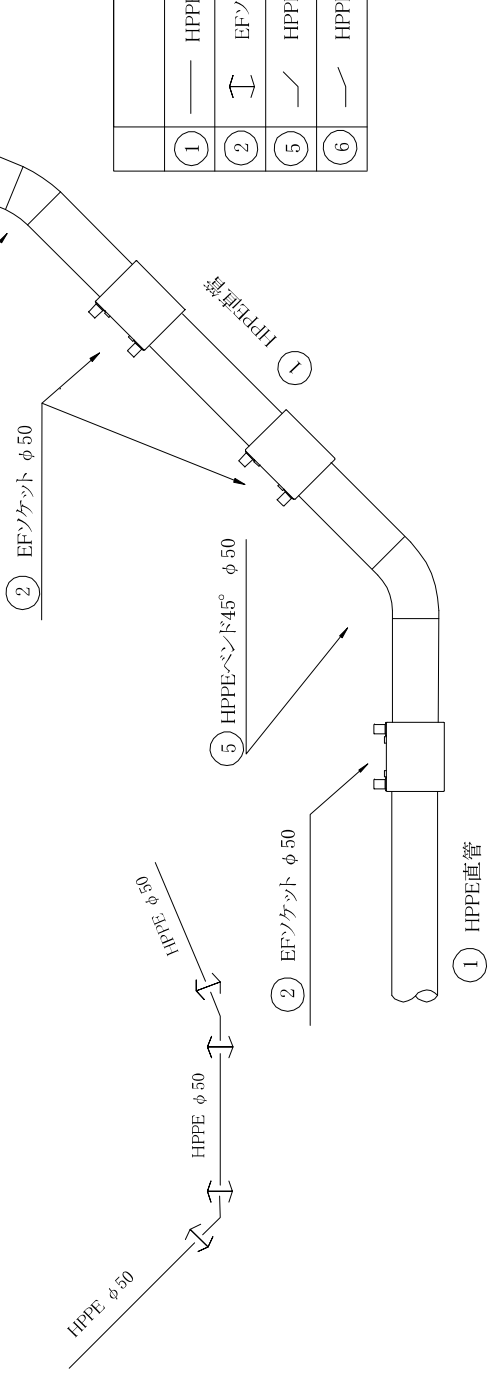
熱融着90° ベント図



	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②	↕	EFソケット φ 50	JWWA K145
④	└	HPPEベンド90° φ 50	PTC K13

熱融着45° ベンド

熱融着22° 1/2ベンド



	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②	↕	EFソケット φ 50	JWWA K145
⑤	└	HPPEベンド45° φ 50	PTC K13
⑥	—	HPPEベンド22° 1/2 φ 50	PTC K13

図 - 2 - 8 HPPE - HPPE 金属継手接続図

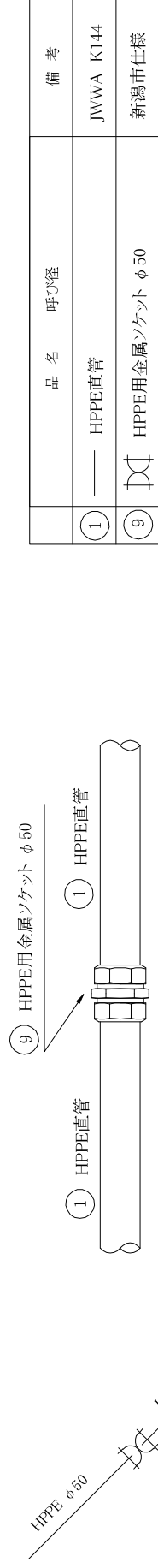


図 - 2 - 9 修繕時 HPPE - HPPE 金属継手接続図

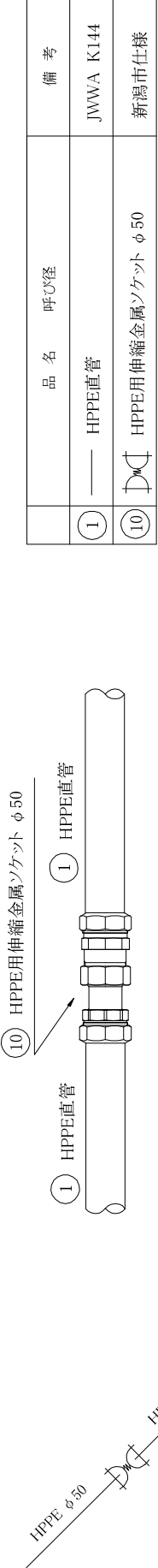
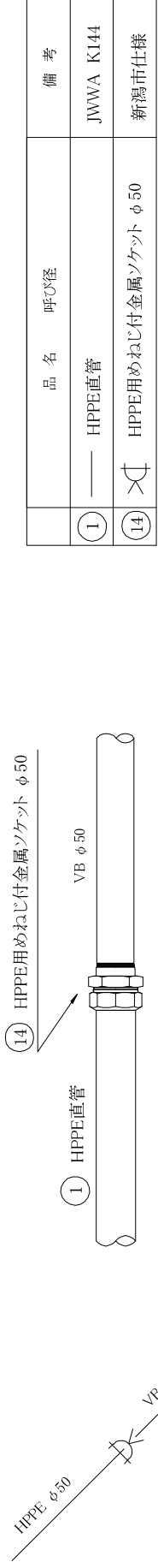
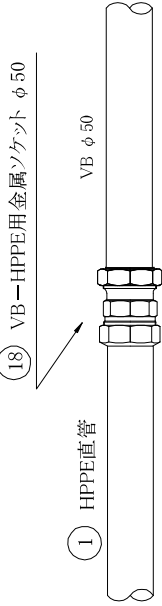
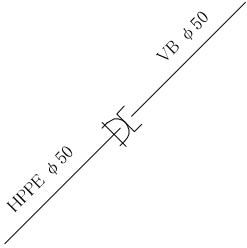


図 - 2 -10 鋼管おねじ - HPPE 金属継手接続図

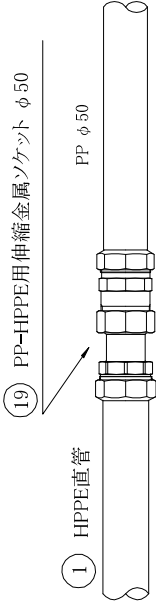
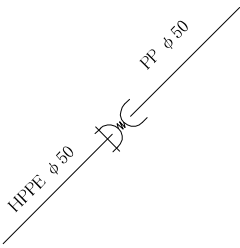


鋼管・HI - HPPE 金属継手接続図



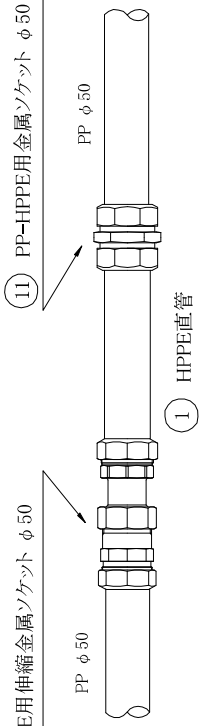
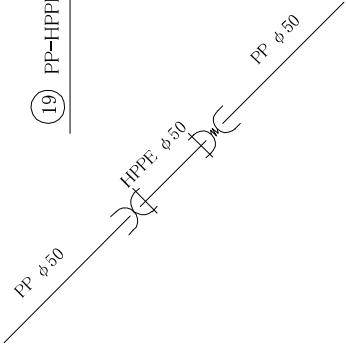
	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑱	ㄣ	VB-HPPE用金属ソケット φ50	新潟市仕様

PP - HPPE 金属継手接続図



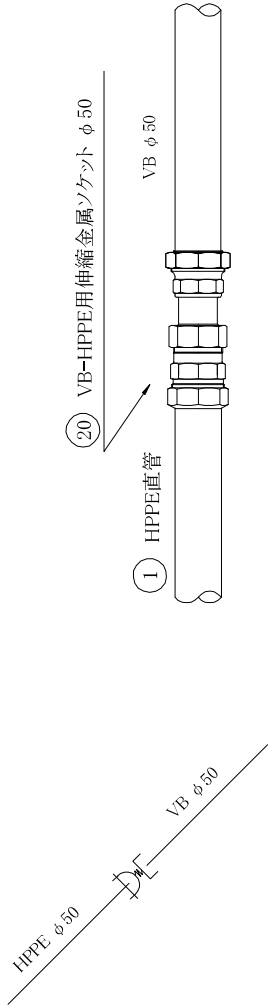
	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑲	ㄣ	PP-HPPE用伸縮金属ソケット φ50	新潟市仕様

修繕時等 PP - HPPE 金属継手接続図



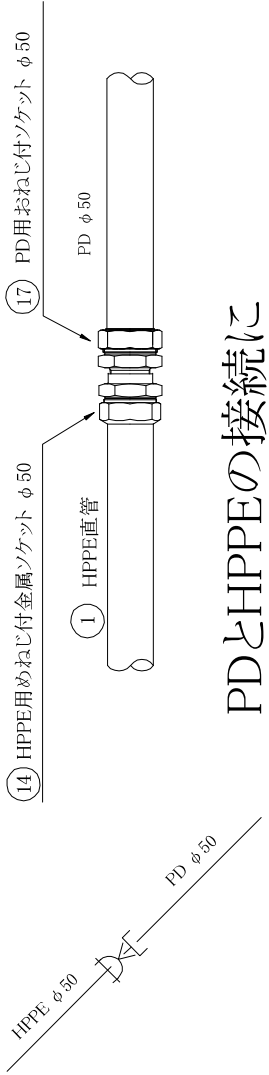
	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
⑪	ㄣ	PP-HPPE用金属ソケット φ50	新潟市仕様
⑲	ㄣ	PP-HPPE用伸縮金属ソケット φ50	新潟市仕様

鋼管・HI - HPPE 金属継手接続図



	品 名	呼び径	備 考
①	— HPPE直管		JWWA K144
②	⌋⌋ VB-HPPE用伸縮金属ソケット φ50		新潟市仕様

PD - HPPE 金属継手接続図



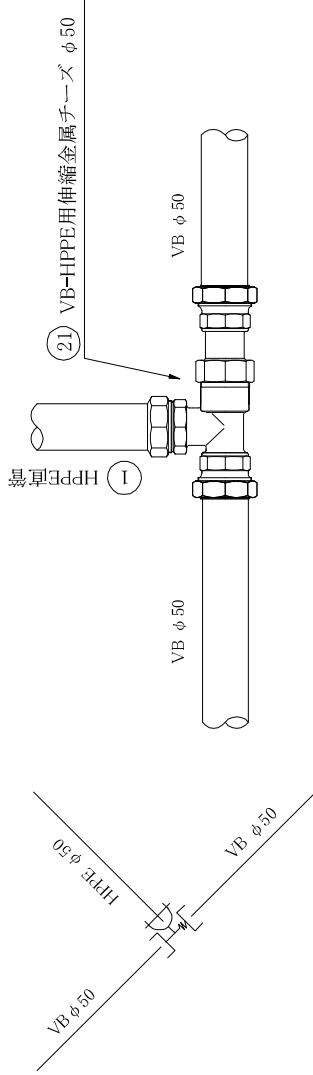
	品 名	呼び径	備 考
①	— HPPE直管		JWWA K144
④	⌋⌋ HPPE用めねじ付金属ソケット φ50		新潟市仕様
⑦	⌋ PD用おねじ付ソケット φ50		新潟市仕様

PDとHPPEの接続に

④と⑦を組合せ使用

図 - 2 - 15

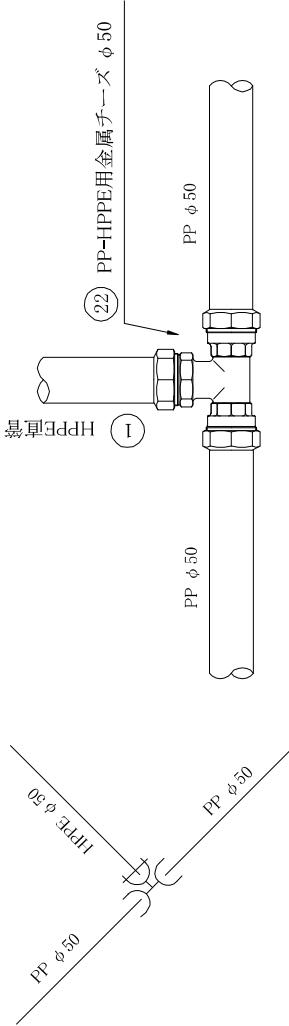
鋼管・HI - HPPE 金属継手分岐図



	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②①		VB-HPPE用伸縮金属チーz φ50	新潟市仕様

図 - 2 - 16

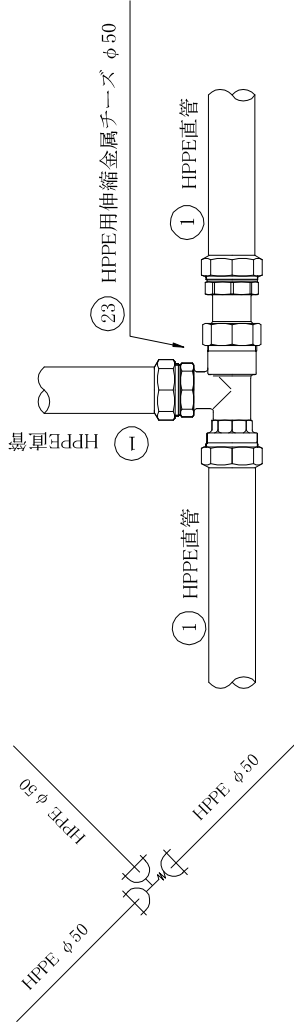
PP - HPPE 金属継手分岐図



	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②②		PP-HPPE用金属チーz φ50	新潟市仕様

図 - 2 - 17

HPPE - HPPE 金属継手分岐図



	品 名	呼び径	備 考
①	—	HPPE直管	JWWA K144
②③		HPPE用伸縮金属チーz φ50	新潟市仕様

水道配水用ポリエチレン管 金属継手(新潟市仕様)

⑨	 HDPE用金属ソケット φ50 HPPEとHPPEの接続に使用	 HPPE 側 HPPE 側	図-2-8参照	⑮	 VB-HPPE用金属ソケット φ50 鋼管・HIとHPPEとの接続に使用	 VB 側 HPPE 側	図-2-11参照
⑩	 HDPE用伸縮金属ソケット φ50 修繕時 HPPEとHPPEの接続に使用	 HPPE 側 HPPE 側	図-2-9参照	⑰	 PP-HPPE用伸縮金属ソケット φ50 PPとHPPEとの接続に使用	 PP 側 HPPE 側	図-2-12参照
⑪	 PP-HPPE用金属ソケット φ50 PPとHPPEの接続に使用	 PP 側 HPPE 側	図-2-12参照	⑳	 VB-HPPE用伸縮金属ソケット φ50 鋼管・HIとHPPEとの接続に使用	 VB 側 HPPE 側	図-2-13参照
⑫	 HDPE用おねじ付 回転金属ソケット φ50 鋳鉄サドル ボール止水栓 φ50メータF 側 鋳鉄サドル及びボール止水栓に使用	 HPPE 側	図-2-1 図-2-3 図-2-4参照	㉑	 VB-HPPE用伸縮金属チーズ φ50 鋼管・HIからの分岐時に使用	 HPPE 側 VB 側	図-2-15参照
⑬	 HDPE用おねじ付 回転金属ソケット φ50×φ40 φ40メータ接続に使用	 HPPE 側	図-2-3参照	㉒	 PP-HPPE用金属チーズ φ50 PPからの分岐時に使用	 HPPE 側 PP 側	図-2-16参照
⑭	 HDPEめねじ付金属ソケット φ50 鋼管おねじとの接続に使用	 VB 側 HPPE 側	図-2-10 図-2-14参照	㉓	 HDPE用伸縮金属チーズ φ50 HDPEからの分岐時に使用	 HPPE 側 HPPE 側	図-2-17参照
⑮	 HDPE用めねじ付分水栓 回転金属ソケット φ50 サドル付分水栓(HDPE用) φ75×φ50に使用	 HPPE 側	図-2-3参照	㉔	 HDPE用金属パイプエンド パイプエンド	 HPPE 側	図-2-6参照
⑯	 90° エルボ HDPE用金属エルボ φ50	 HPPE 側	図-2-3参照				
⑰	 PD用おねじ付ソケット φ50(既存品) PDとHDPEの接続に⑳と組合せ使用	 PD 側 HPPE 側	図-2-14参照	㉕ + ㉖	㉕の組合せ状況 PD-HPPE 継手ソケット φ50	 PD 側 HPPE 側	図-2-14参照

水道配水用ポリエチレン管 金属継手の色別

HPPE管側受口色	ブルー (青)
VB(H)管側受口色	グレー (灰色)
PP管側受口色	無色(砲金地肌)